

桃山学院

画 情 義 報

2005年度

講 義 計 画

桃山学院大学

回

計

数

講

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	-	溪 村 真 司

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

課題へのとりくみ姿勢、レポート等により総合的に評価する。

【教科書】

授業時に提示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	-	鶴 宏 史

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・授業態度・レポートなどで総合的に評価する。

【教科書】

適宜紹介する。

【参考文献】

- ①山田容『ワークブック社会福祉援助技術演習①対人援助の基礎』ミネルヴァ書房、2003年。
- ②対人援助実践研究会HEART『対人援助ワークブック』久美株式会社、2003年。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	-	安 原 佳 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業、課題に対する参加状況（出席率・とりくみの姿勢）レポート等により、総合的に評価する。

【教科書】

授業時に提示する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する

科 目 名			
社会福祉援助技術演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	-	武 田 祐 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通じてその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席、課題レポート、講義への参加態度により評価する。

【教科書】

授業にて提示する。

【参考文献】

適宜授業にて紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	8	川 井 太加子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席重視、その他 授業内での発表、レポートなどにより総合的に評価する。

【教科書】

随時、プリント等を配布する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	8	大 西 雅 裕

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業への出席を重視し、課題への取り組み状況、レポート等の提出および課題達成状況等々による総合的評価を行う。

【教科書】

対人援助実践研究会編
「対人援助ワークブック」
久美出版

【参考文献】

適宜授業で紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	8	金 澤 ますみ

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業への参加状況、(出席率・とりくみの姿勢等)、レポート等の提出物により総合的に評価する。

【教科書】

『社会福祉小六法 2005』ミネルヴァ書房

牧口一二・原作/監修『風の旅人』解放出版社

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	8	川 東 光 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

授業、課題に対する参加状況（出席率・とりくむ姿勢）レポート等により、総合的に評価する。

【教科書】

授業時に提示する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	8	黒 田 隆 之

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	8	小 西 加 保 留

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席を重視し、課題への参加状況、レポートなどによって、総合的に判断する。

【教科書】

特に使用しない。
資料を授業時に配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	8	溪 村 真 司

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

課題のとりくみ姿勢、授業の参加状況、レポート等により総合的に評価する。

【教科書】

授業時に提示する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	8	鶴 宏 史

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

【講義計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
- 2 実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・授業態度・レポートなどで総合的に評価する。

【教科書】

適宜紹介する。

【参考文献】

- ①倉石哲也『ワークブック社会福祉援助技術演習③家族ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2004年。
- ②岩間伸之『ワークブック社会福祉援助技術演習④グループワーク』ミネルヴァ書房、2004年。
- ③筒井のり子『ワークブック社会福祉援助技術演習⑤コミュニティソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2004年。

科 目 名			
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	〈春〉坪 山 孝一 〈秋〉松 本 眞一
02	通期	2	石 田 易 司
03	通期	2	伊 藤 高 章
04	通期	2	〈春〉上野谷 加代子 〈秋〉安 原 佳 子
05	通期	2	黒 田 隆 之
06	通期	2	松 端 克 文

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職(社会福祉士)として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

【講義計画】

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚学習
- 3 社会福祉現場で働く社会福祉士からの講話
- 4 現場体験学習
- 5 見学実習
- 6 見学実習記録に基づくレポートの作成
- 7 全体総括

【成績評価の方法】

- ・出席重視
- ・レポート 等で総合的評価

【教科書】

授業時指定する。

科 目 名			
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	荒 川 輝 男
02	通期	2	川 東 光 子
03	通期	2	阪 野 学 哉
04	通期	2	坂 本 光 哉
05	通期	2	高 田 さやか
06	通期	2	淡 野 勝 也
07	通期	2	西 浦 太 一
08	通期	2	藤 田 満 子
09	通期	2	安 原 佳 子
10	通期	2	山 本 晃

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職(社会福祉士)として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

【講義計画】

- 1 配属実習オリエンテーション
- 2 専門援助技術実技指導
- 3 面接実技指導
- 4 記録実技指導
- 5 評価・効果測定実技指導
- 6 配属実習
- 7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成
- 8 レポートに基づく個別指導
- 9 全体総括会

【成績評価の方法】

全出席(学内・学外)が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会・実習先評価を総合的に判断し、評価する。

【教科書】

授業時指定する。

科 目 名			
社会福祉援助技術現場実習Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	〈春〉上野谷 加代子 〈秋〉村 田 智 美
02	通期	2	大 野 洋
03	通期	2	金 澤 ますみ
04	通期	2	黒 田 隆 之
05	通期	2	佐 竹 紀美子
06	通期	2	田 中 信 行
07	通期	2	〈春〉坪 山 孝 子 〈秋〉塩 田 祥 子
08	通期	2	西 浦 太 一
09	通期	2	松 端 克 文
10	通期	2	安 原 佳 子

【講義概要・学習目標】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

【講義計画】

- 1 配属実習オリエンテーション
- 2 専門援助技術実技指導
- 3 面接実技指導
- 4 記録実技指導
- 5 評価・効果測定実技指導
- 6 配属実習
- 7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成
- 8 レポートに基づく個別指導
- 9 全体総括会

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。

【教科書】

授業時指定する。

科 目 名			
社会福祉援助技術現場実習Ⅳ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	小 西 加保留

【講義概要・学習目標】

1. 保健医療の領域におけるソーシャルワークの現状を把握する。
2. 各医療機関の機能や業務の特徴を理解する。
3. 必要な社会資源について、その枠組みを理解する。
4. ソーシャルワークの価値や倫理について具体的に考察する。
5. ソーシャルワークの意義や役割について実習体験を基に理解する。
6. 対象領域別に必要な知識を整理し、把握する。
7. チーム医療のあり方について学習する。

【講義計画】

[実習前課題]

1. 実習目標の明確化。
2. 言葉遣いなどのマナーを習得する。
3. 医療機関の機能や特徴を理解する。
4. 基本的な医療保険・所得保障制度を理解する。

[実習後課題]

1. 実習体験の報告に基づき、クラス討論を実施する。
2. 実習記録の書き方を学ぶ。
3. 実習記録を基に、必要な情報やアセスメント等ソーシャルワークの視点を確認する。
4. 学習目標に沿って、各自の学習を深め整理する。
5. 実習報告会に向けての準備を行なう。

【成績評価の方法】

実習機関での評価、授業への参加度、理解度等を総合的に評価する。

【教科書】

日本医療ソーシャルワーク研究会編『介護保険時代の医療福祉総合ガイドブック』医学書院

【参考文献】

荒川義子（編）『医療ソーシャルワーカーの仕事』（川島書店）2000

この他、適宜紹介する。

科 目 名			
社会福祉援助技術論 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	—	石 田 易 司

【講義概要・学習目標】

- この授業を2年間継続して履修し、以下の目標を達成する。
1. 基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解させる。
 2. 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について、理解させる。
 3. 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解させる。
 4. 社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について理解させる。
 5. 社会福祉援助活動における専門技術の体系について理解させる。
 6. 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解させる。

【講義計画】

1. 社会福祉サービスと援助活動の関係
2. 福祉専門職と専門援助技術の関係
3. 専門援助技術の歴史的展開
4. 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題
 - 1) 社会福祉援助活動の目的と価値
 - 2) 社会福祉援助活動の原則（人権尊重・権利擁護・自立支援等を含む）
 - 3) 社会福祉援助活動の展開過程
 - ①援助開始時の面接（インタビュー）と事前評価（アセスメント）
 - ②援助計画の作成
 - ③援助活動の実施
 - ④援助活動の評価
 - 4) 社会福祉援助活動の共通課題
 - ①契約・介入・課題の意義と方法
 - ②面接の意義と方法
 - ③記録の意義と方法
 - ④評価の意義と方法
 - ⑤専門職相互による助言協力（スーパービジョン）の意義と方法
 - ⑥個別事象の継続的援助（ケースマネジメント）の意義と方法
5. 専門援助技術の体系及び内容
 - 1) 直接援助技術
 - ①個別援助技術（ケースワーク）
 - ②集団援助技術（グループワーク）
 - 2) 間接援助技術
 - ①地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技法
 - イ 地域援助技術の概念と基本的性格
 - ロ 地域社会の組織化
 - ハ 地域援助技術
 - ニ 社会活動法
 - ②社会福祉調査法の理論と技術
 - イ 社会福祉調査の基本的性格と類型
 - ロ 統計調査法における調査技術
 - ハ 事例調査における調査技術
 - ③社会福祉の運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション）と社会福祉計画の技術
 - 3) その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む）
6. 社会福祉援助活動の場と専門援助技術
7. 専門援助技術と倫理
8. 専門援助技術の統合化とチームにおける対応
9. 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向

【参考文献】

ジェネラリスト・ソーシャルワーク ミネルヴァ書房
 ルイズC. ジョンソン/ステファンJ. ヤンカ 著
 社会福祉援助技術総論 中央法規

科 目 名			
社会福祉援助技術論 II			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	8	小 西 加保留

【講義概要・学習目標】

1. 基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解させる。
2. 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について、理解させる。
3. 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解させる。
4. 社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について理解させる。
5. 社会福祉援助活動における専門技術の体系について理解させる。
6. 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解させる。

【講義計画】

社会福祉援助技術論 I での学習を基礎に以下の点を中心に講義する。

1. 福祉専門職と専門援助技術の関係
2. 専門援助技術の歴史的展開
3. 個別援助技術の理論と技術
4. 個別援助技術・集団援助技術・地域援助技術の統合
5. 組織・団体援助
6. 社会福祉調査法の理論と技術
7. 社会福祉援助技術の課題と展望

【成績評価の方法】

出席状況、学期末試験による

【教科書】

黒木保博、福山和女、牧里毎治（編著）『社会福祉援助技術論（下）』（ミネルヴァ書房）

【参考文献】

必要に応じて紹介する

さ
行

科 目 名			
社会福祉行財政論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	柴 田 幹 男

【講義概要・学習目標】

1. 社会福祉行財政の基礎構造を理解する。
社会福祉の組織、専門職、サービス提供方式、財政等にかかわる制度体系とこれを支える基本原理、制度の歴史的背景、現状等を解説する。
2. 社会福祉行財政システムを地方自治体の実情をふまえ分析・検討する。
地方自治体における社会福祉行財政運営の実際を自治体を例にあげ、分析・検討する。
3. 社会保障・社会福祉改革のあり方を検討する。
介護保険制度改革や支援費制度から自立支援給付法への改革など社会福祉の行財政改革の内容や課題を検討する。

【講義計画】

1. オリエンテーション（講義の概要、目的、などの説明）
2. 社会福祉行財政の構造
3. 社会福祉行政の組織と専門職
 - ・官僚制と専門職主義
 - ・社会福祉行政の組織
 - ・社会福祉の資格制度と従事者
4. 社会福祉サービス提供システム
 - ・措置制度の仕組み・問題点・争点
 - ・制度改革①—「措置から契約へ」…介護保険・社会福祉基礎構造改革
 - ・制度改革②—介護保険改革
 - ・制度改革③—支援費制度と自立支援給付法
5. 社会福祉の財政
 - ・福祉財政の構造と実情
 - ・国・地方の社会福祉財政
 - ・社会福祉サービスの費用
 - ・利用者負担
6. まとめ

【成績評価の方法】

出席と試験で総合に評価する。

【教科書】

講義中に紹介する。

【参考文献】

講義中に紹介する。

科 目 名			
社会福祉計画論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	松 端 克 文

【講義概要・学習目標】

社会福祉計画は、社会福祉に関する諸施策・サービスやさまざまな活動を推進していくための重要な方法のひとつである。日本では、1989年に国により「高齢者保健福祉推進10か年戦略（ゴールドプラン）」が策定されてから以降、国のレベルだけではなく、地方自治体においても計画的に社会福祉を推進するという方法が定着してきた。

本講では、高齢者福祉、障害者福祉、そして子どもの福祉の領域において策定されている各種の計画の策定背景、計画の内容、計画策定後の各種取り組みの実施状況およびその効果などの分析・検討を行う。

また、2000年の社会福祉法の改正により同法に新たに規定（2003年施行）された地域福祉計画についても、具体的な事例をとりあげながら、その策定手法や策定プロセス、計画の内容などをソーシャルワークの観点もふまえ分析・検討する。

【講義計画】

1. 戦後の日本の福祉政策・制度の概観
2. 少子高齢社会の抱える課題の分析
3. 高齢者分野（国および市町村）の計画の策定背景、プロセス、内容、実施状況、効果
4. 障害者分野（国および市町村）の計画の策定背景、プロセス、内容、実施状況、効果
5. 子ども分野（国および市町村）の計画の策定背景、プロセス、内容、実施状況、効果
6. 地域福祉計画の策定背景、プロセス、内容、実施状況、効果
7. その他の計画についての外観
8. 地方分権・地方自治と計画
9. 住民参加と計画
10. ソーシャルワークと計画

【成績評価の方法】

出席と試験で総合に評価する。

【教科書】

上野谷加代子・松端克文・山縣文治『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房、2004。

【参考文献】

『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房。
『国民の福祉の動向』厚生統計協会。

科 目 名

社会福祉原論

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	松 本 眞 一

【講義概要・学習目標】

- 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式等を活用し理解させる。
- 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解させる。
- 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解させる。
- 4 社会福祉の専門性と倫理について理解させる。
- 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容について理解させる。
- 6 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。
- 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会福祉
 - 1) 社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会福祉対象の把握方法
- 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法
- 4 社会福祉援助活動における専門性と倫理
 - 1) 専門性と専門職の内容
 - 2) 職業観及び勤労観
 - 3) 保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方
 - 4) 社会福祉援助活動と倫理
- 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容
- 6 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要
 - 1) 社会福祉事業法・福祉六法及び関連法規の内容及び相互関係
 - 2) 社会福祉の実施体制
 - 3) 社会福祉の財政と費用負担
 - 4) 社会保障制度
- 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向

【成績評価の方法】

期末試験（期間内）の結果により、評価するが、出席点も加味される。

【教科書】

川村・倉田著『社会福祉概論』ミネルヴァ書房

【参考文献】

- ・松本眞一編著『現代社会福祉論』（改訂版）ミネルヴァ書房
- ・福祉士養成講座編集委員会（編）『社会福祉士養成講座 第1巻 社会福祉原論』中央法規出版

科 目 名

社会福祉施設経営論
（旧社会福祉施設運営論）

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	坪 山 孝

【講義概要・学習目標】

社会福祉施設は介護保険制度や支援費制度によって経営することを求められる時代になった。社会福祉施設の経営についてサービス・人事・労務・財務等の諸管理について講義して、総合的に社会福祉施設の経営管理を学習する契機としたい。
社会福祉施設の新しい課題である利用者本位のサービス・苦情対応・リスクマネジメント・第三者評価事業などについても講義する。

【講義計画】

- 1 社会福祉施設の経営と社会福祉法人制度
- 2 利用者のニーズとサービス管理
- 3 社会福祉施設の組織・人事管理
- 4 社会福祉施設の財務管理
- 5 社会福祉施設と地域社会
- 6 社会福祉施設の建物・設備管理

【成績評価の方法】

学期末試験による

【教科書】

講義時に適宜配布すると同時に紹介する

【参考文献】

社会福祉施設運営（経営）論
社会福祉学習双書（全国社会福祉協議会）2005

科 目 名			
社会福祉施設サービス論 (旧社会福祉施設処遇論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	松 端 克 文

【講義概要・学習目標】

本講は社会福祉施設での援助論（支援論）あるいはサービス論である。今日、日本の社会福祉従事者は140万人を超えているが、その7割以上が社会福祉施設の職員である。本学の卒業生の就職先も大半が社会福祉施設である。

日本では、今日でも社会福祉施設が重要な位置を占めているにもかかわらず、社会福祉施設の職員が（大学で学んだ知識や技術を活かして）ソーシャルワークの実践をしていくという観点から整理され、体系化された理論や方法はほとんどない。また、地域福祉の重要性が指摘されているにもかかわらず、社会福祉施設と地域福祉との関係が積極的に論じられることもほとんどない状況である。

そこで本講では、社会福祉施設をソーシャルワーク実践の場として積極的に位置づけ、その考え方や具体的な実践の展開方法を地域福祉の観点もふまえて明らかにしていくことができるよう努めたい。

【講義計画】

1. 社会福祉改革の動向と社会福祉施設
2. 社会福祉施設の歴史
3. 社会福祉施設の制度体系
4. 社会福祉施設サービス・運営の仕組みと課題
5. ノーマライゼーションの思想と脱施設化
6. 社会福祉施設におけるソーシャルワーク実践
7. ケアプラン、個別支援計画の考え方と書き方
8. 社会福祉施設のサービス評価、苦情解決の仕組み、オンブズマンの活動
9. 事例検討

【成績評価の方法】

出席と試験で総合に評価する。

【教科書】

松端克文『障害者の個別支援計画の考え方・書き方』日総研、2004。

【参考文献】

講義中に紹介する。

科 目 名			
社会福祉特講－新しい福祉課題			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	松 端 克 文

【講義概要・学習目標】

本講は、読売新聞社により提供されるものである。

今日の日本の社会保障・社会福祉は、少子高齢社会の到来や低経済成長を背景に、大きな変革期を迎えている。それだけに各種の制度改革の動向や内容、あるいは私たちの抱える多様化し、深刻化している生活課題・福祉課題の内容を把握することは極めて重要である。

そこで本講では、読売新聞社の編集委員の方を中心に、現場の記者や論説委員をお招きし、年金や医療、介護保険、子育て支援など社会保障や社会福祉に関する最新の情報をさまざまな観点から講義していただく。

現実に社会のなかで生じている事象をおさえながら、これからの社会や福祉のあり方を考える講義なので、福祉領域で専門職として働くことを目指している学生や社会福祉士の受験をめざしている学生の受講を歓迎する。

【講義計画】

1. ホームレスと生活保護
2. 少子高齢社会と年金改革
3. 介護保険改革の内容と課題
4. 在宅、施設、第三の住まい
5. 女性と雇用
6. 子育て支援
7. ヨーロッパの社会保障
8. 医療ルネサンス
9. 医療倫理と職業倫理
10. ガンと病名告知
11. 治安悪化と高齢者
12. シニアと国際協力 など

【成績評価の方法】

出席と試験による。

【教科書】

用いない。

【参考文献】

随時、授業中に紹介する。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
社会福祉発達史 [2]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	木 村 和 世

【講義概要・学習目標】

明治期の恤救規則から現代の福祉までを対象とする。福祉史を身近なものとして把握するために南河内地方の農村や大阪の都市を扱って、その変化を見ていく。福祉史は単に過去の出来事を勉強するだけでなく、現在を見る眼を養うものであることを、講義を通して学んでほしい。

【講義計画】

1. 明治期の恤救規則と南河内の村々
2. 社会問題の発生と社会事業
3. 大正期一都市リベラリズムの光と影
4. 大阪毎日新聞記者 村嶋歸之と大阪
5. 社会事業から厚生事業へ
6. 1945年・大阪
7. 戦後の社会福祉政策の展開

【成績評価の方法】

出席を重視する
テスト、レポートについては講義時に通知する

【教科書】

プリントを必要に応じて配布する

【参考文献】

『都市の近代・大阪の20世紀』 芝村篤樹/『大正/大阪/スラム』 杉原薫・玉井金五編/『防貧の創造』 玉井金五/『昭和20年 1945年』 藤原彰・栗屋憲太郎・吉田裕 編

科 目 名			
社会福祉法 (旧社会福祉法制論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	瀧 澤 仁 唱

【講義概要・学習目標】

1. 社会福祉の法体系及び関係法の概要を理解させる。
2. 社会福祉の実施体制の概要を理解させる。
3. 社会福祉の財政の構造及び社会福祉における費用徴収制度を理解させる。
4. 我が国における公私の役割を理解させる。

【講義計画】

1. 我が国における社会福祉行政の歴史的展開
2. 社会福祉法制の概要
 - 1) 福祉六法を中軸とする社会福祉法制の概要
 - 2) 社会福祉法を中軸とする社会福祉の法的基盤(民生委員法、日本赤十字社法、社会福祉・医療事業団法を含む)
 - 3) 関連法の概要(介護保険法、売春防止法、災害救助法、戦傷病者特別援護法等)
 - 4) 社会福祉計画(老人保健福祉計画、障害者計画、児童健全育成計画、地域福祉計画)
 - 5) 地方自治体の独自事業
3. 社会福祉の実施体制(国と地方の役割、行政機関と関係機関、措置制度)
4. 社会福祉の財政と費用負担
5. 社会福祉における公私の役割分担と連携のあり方

【成績評価の方法】

論述式筆記試験

【教科書】

法改正が多く、適当な教科書が間に合わないの、別途指示します。

さ
行

科 目 名			
社会保障論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	8・12月 集中	4	赤 井 朱 美

【講義概要・学習目標】

- 1 現代社会における社会保障の理念と意義について理解させる。
- 2 社会保障制度の体系について理解させる。
- 3 社会保障の各制度の概要について理解させる。
- 4 日本の年金保険について熟知させる。
- 5 日本の医療保険について熟知させる。
- 6 日本の民間保険の概要と公的施策との関係について理解させる。
- 7 社会保障の実施体制及び専門職について理解させる。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会保障
 - 1) 社会保障理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会保障制度の体系
- 3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要
 - 1) 年金保険
 - 2) 医療保険
 - 3) 介護保険
 - 4) 労災保険
 - 5) 失業保険（雇用保険）
 - 6) 家族手当（児童手当）
 - 7) 公的扶助
 - 8) その他関連制度
- 4 日本の年金保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民年金
 - 2) 厚生年金
 - 3) 各種共済組合の年金
- 5 日本の医療保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民健康保険
 - 2) 健康保険
 - 3) 各種共済組合の医療保険
- 6 公的施策と民間保険
 - 1) 公的施策との関係
 - 2) 現状
- 7 社会保障の実施体制及び専門職

【成績評価の方法】

定期試験による評価（なお、前後期試験のいずれかを受験しなかった者は、単位認定できない）。

【教科書】

レジュメ適宜配布の予定
教科書使用については検討中

【参考文献】

有斐閣アルマ「はじめての社会保障」など
適宜授業で紹介する

【備考】

<02～04生>
共通自由科目として、SW生対象外

科 目 名			
宗教社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	清 水 夏 樹

【講義概要・学習目標】

宗教にまつわる問題は、ある意味で社会学の窮極の課題とさえいえる面をもつ。日本および西洋の宗教史をたどりながら、近・現代社会に占めるそのウェイトと機能を考える。明治以降の新宗教活動の一端をみ、戦後社会が当面する「光と影」の部分を理解する手がかりとしたい。E・デュルケイム、M・ウェーバー等先人の業績をふまえ、また文化人類学、民俗学上の知識・事例研究にも触れながら、現実の「社会」と生身の「人間」との有機的な結びつきを問い直す姿勢を大切に講義をすすめたい。

随時プリント資料を配布、それらをもとに簡易テストやレポート提出を課す。欠席日数が多いと単位取得に支障をきたすことに注意のこと。

【講義計画】

前期

聖と俗、未開社会の宗教儀礼、祭りの構造と習俗基盤、修験道等伝統儀礼にみるシンボルの動態、宗教の世俗化とその逆現象、同じくその脱俗化（再聖化）とdemonization、カリスマの発祥と変容。

後期

神仏習合にみる日本固有信仰の特徴、その歴史的基盤、日本近代化の舞台裏を担うものとしての新宗教々団、経済発展と宗教倫理との逆説的な関係、現代社会のひずみと宗教ブーム、同じくsubculturalな動向にみる価値フレームとの関連。

【教科書】

追って連絡通告する

【参考文献】

講義中にまとめて紹介する。

科 目 名			
生涯学習概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	伊 藤 正 純
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

日本でも生涯学習は当たり前の言葉となってきたが、しかし、政府および地方自治体が普及をはかっている割には、人々に浸透しているようには思えない。生涯教育・生涯学習は1960年代、70年代にユネスコ、OECDなどの国際機関が提唱したものである。それは急速な技術革新と高齢化の進展に対応して、勤労成人を含めてすべての人々に学習機会を保障する必要が生じたからである。生涯学習普及にとって最大のネックは時間である。その意味でも、ILOが勧告した有給教育休暇制度を導入しないかぎり、日本の生涯学習はいつまでたっても中途半端で終わるだろう。本講義では、生涯学習大国・スウェーデンと比較しながら、日本の生涯学習の現状を紹介し、考えたい。

【講義計画】

1. 生涯学習とは何か。ユネスコの生涯教育論、OECDのリカレント教育論、ILOの有給教育休暇勧告。
2. 生涯学習の国・スウェーデンでの実験、労働市場プログラム、リカレント教育、コミュニケーション成人教育、国民高等学校、高い成人学生の割合、学生ローン制度、教育休暇制度、成人教育奨学金制度、学習サークル。
3. 日本の「生涯学習社会」とその現状、
 - (1) 臨教審答申、生涯学習振興法
 - (2) 地方自治体の取り組み（市民大学、公民館活動など）
 - (3) 大学改革、高校改革、生涯学習機関としての学校、コンソーシアムなど。

【成績評価の方法】

司書および学芸員の資格取得科目でもあるので、出席を重視する。毎回、授業の感想を書いてもらう。評価の8割はこの感想文で、残りの2割は期末試験で評価する。なお、20分を超えた遅刻は原則として認めない。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

1. 日本社会教育学会編 講座 現代社会教育の理論①『現代教育改革と社会教育』 東洋館出版社。
2. 監修代表 鈴木眞理、シリーズ 生涯学習社会における社会教育<<全7巻>> 学文社。
3. 黒沢惟昭他編『苦悩する先進国の生涯学習』 社会評論社。
4. 赤尾勝己『生涯学習概論』 関西大学出版部。
5. 森岡孝二他編『21世紀の経済社会を構想する』 桜井書店。

科 目 名			
障害者福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	黒 田 隆 之

【講義概要・学習目標】

本講義の目標は、学生の皆さんに、障害のある人が地域社会の中で生活するというは当たり前のことであるということを理解してもらうことと、そのためにはどのような支援が必要であるのかということを考えてもらうことである。教科書の内容を学習するだけでなく、ビデオ教材を用いたり、障害のある人の話を聞いたりするなど、障害のある人がおかれている今の状況を理解できるような講義を行う。

【講義計画】

- ・ 障害者福祉の考え方
- ・ 障害の概念と障害者の実態
- ・ 障害者福祉の史的展開
- ・ 障害者施策の体系
- ・ 障害者福祉のサービス体系
- ・ 障害者福祉の関連分野
- ・ 障害者運動と当事者参加
- ・ 障害者に対する相談援助活動

【成績評価の方法】

出席、レポート、テスト等により総合的に評価する。

【教科書】

『社会福祉士養成講座 (3) 障害者福祉論』 中央法規出版

【参考文献】

授業時に提示する

さ
行

科 目 名			
商学総論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	中 田 善 啓

【講義概要・学習目標】

企業が行っている取引を商学の観点から説明する。これまでは商学は流通が中心であったが、市場形成活動を中心に視点を拡大して、部品供給企業、製造企業、流通企業、消費者の取引をみていく。

取引の観点からみると、企業は市場の懸隔を架橋している。これは市場を形成していることを意味する。市場形成活動は企業と顧客の取引を媒介する。そのために企業は川上市場と川下市場で取引ネットワークを構築する。企業は取引を効率的に行うために、他企業と統合だけでなくアウトソーシング、提携通じてネットワーク化を図っている。さらに、市場形成戦略を見ていく。

【講義計画】

1. 商学と市場創出
2. 需給マッチングと情報
3. 市場創出活動と裁定取引
4. 仲介活動
5. ネットワーク化
6. 参入戦略
7. 攻撃的戦略と防御的戦略
8. ブランド
9. 創発

【成績評価の方法】

期末テストを中心に成績を評価する。

【教科書】

中田善啓著『マーケティングの変革』同文館 2002年

【参考文献】

中田善啓著『マーケティングの進化』同文館 1998年
 中田善啓著『マーケティング戦略と競争』同文館 1992年
 中田善啓著『マーケティングと組織間関係』同文館 1986年
 テドロウ『マス・マーケティング史』（ミネルヴァ書房）年
 授業中のトピックについてその都度参考書、資料を紹介したい。

教科書は生協で一括購入、販売する

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
商業科教育法 [4]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	松 原 勇

【講義概要・学習目標】

経営革新時代の商業科教員を目指す学生を対象にした「高等学校教員（1種）免許取得」のための必修科目である。

激動する世界経済のなか商業教育は、国際化・情報化に対応できる人材の育成が急務である。近年、特に優れた職業倫理を身につけ、「心の充実」「思考力の強化」「知識・技術の拡大・発展」等の習得が不可欠である。学習指導要領を踏まえ、「アイデンティティ」「豊かな人間性」「一人一人の個性」等を伸ばす能力を十分に生かすことを大きな目標にしている。将来教育に携わる者は、常に教育理念を念頭におきながら、商業教育の本質に立脚した自覚と責任をもって臨まなくてはならない。

本講は、教育者としての人間力を磨くと共に世界経済の現状と将来の商業教育を展望しつつ、教育上の本筋を究明する。特に年間指導計画、毎時の学習指導案の作成、学習指導法、模擬授業など教育者が修得すべき方法論を重点的に網羅して実践指導する。

【講義計画】

- 1 商業教育の意義と目的
- 2 商業教育の変遷
- 3 現在の高等学校の商業教育
- 4 商業教育における国際化と情報化
- 5 教育課程の編成
- 6 学習指導法（模擬授業の展開）
- 7 学習指導計画と教育評価
- 8 教員の資質能力と研修制度
- 9 職業資格制度と検定試験制度
- 10 今後の商業教育の展望等

【成績評価の方法】

主として、出席を厳しく重視して評価する。なお、模擬授業の実践面の評価、期末試験等も勘案のうえ、総合評価とする。

【教科書】

松原 勇（編著）「商業科教育法」（ぎょうせい）
 高等学校学習指導要領解説（商業編）

科 目 名			
商業簿記			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	全 在 紋
02	通期	4	全 在 紋
03	通期	4	中 村 恒 彦
04	通期	4	中 村 恒 彦

【講義概要・学習目標】

■学習目標 平成17年度日商簿記検定試験3級合格
(本講義では、日本商工会議所簿記検定3級を取得することを目的とします)

■講義概要 今日の経済社会の発展は、簿記の利用なくしては不可能であったと断言しても過言ではありません。この意味で、簿記はたんに会計学のみならず、経営学、経済学、その他の基礎としても必要不可欠な学習科目の一つです。

商業簿記3級は、個人商店を前提として複式簿記による記帳(仕訳・勘定記入)の基礎および簿記一巡の処理の流れを学習していきます。期中処理では、商品売買に係る小切手、手形の取扱いおよびその他の記帳処理が重要な学習内容であり、決算においては、商品売買、受取手形・売掛金、固定資産の決算整理が重要項目となります。また、決算整理後の報告書(損益計算書、貸借対照表)の作成も重要な学習内容です。

【講義計画】

[講義計画]

第110回 日商簿記検定試験3級対策: 4- 6月

第111回 日商簿記検定試験3級対策: 6-11月

第112回 日商簿記検定試験3級対策: 11- 1月

※6月以降は成績別にクラス編成します。

[講義内容]

- ①簿記の目的・取引・仕訳
- ②勘定口座への記入方法・試算表・商品売買の記帳方法・引取運賃及び発送費の記帳方法・手付金の記帳方法
- ③現金及び預金の記帳方法・手形の記帳方法(決済まで)
- ④手形の記帳方法(裏書譲渡から)・その他の勘定の記帳方法(有価証券・債権債務・収益・費用)
- ⑤その他の勘定の記帳方法(訂正仕訳)・主要簿及び補助簿(小口現金出納帳まで)
- ⑥主要簿及び補助簿(受取手形記入帳から)・伝票
- ⑦決算・決算整理(売上原価の計算)・英米式決算法
- ⑧精算表・その他の決算整理(貸倒れ・減価償却)
- ⑨その他の決算整理(有形固定資産の売却・繰延べ・見越し・消耗品費と消耗品)
- ⑩その他の決算整理(現金過不足・現金・売買目的有価証券・引出金)
- ⑪直前対策総まとめ講義(予定)
- ⑫直前対策I
- ⑬直前対策II
- ⑭直前対策III
- ⑮直前対策IV
- ⑯公開模擬試験
- ⑰検定問題の解説

【成績評価の方法】

単位修得条件: 日商簿記検定試験3級合格(合格点70点)
日本商工会議所の簿記検定は、年3回(6月・11月・2月)に実施されています。

【教科書】

- 大原簿記学校オリジナル教材
- ①ALFA 3級商業簿記テキスト
 - ②ALFA 3級商業簿記ドリル
 - ③ALFA 3級商業簿記アンサー

【参考文献】

必要があれば、適宜指示します。

【備考】

05B生対象

科 目 名			
商業簿記 (旧簿記I)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	春学期集中	4	河 合 隆 治
06	春学期集中	4	金 光 明 雄
07	秋学期集中	4	河 合 隆 治
08	秋学期集中	4	金 光 明 雄

【講義概要・学習目標】

簿記は、企業の財務状態や経営状況を知る上で不可欠な知識であり、会計学を理解するための基礎に相当します。例えば、企業が倒産するかどうかやどれほどの借金を抱えているかについては財務諸表と呼ばれる書類に記載されていますが、これは簿記の知識がないと正確に読み取ることができません。

この講義では、ほとんどの企業で用いられている複式簿記について、その基本構造を理解し、記帳技術を習得することを目標とします。ここで複式簿記とは、企業が行う商品売買などの取引を二面的に把握・記録するための体系的な技術を指します。

具体的には、企業活動に伴う取引の記帳からはじまり財務諸表の作成にいたるまでを、(1)複式簿記の基礎概念、(2)諸取引の会計処理、(3)決算と財務諸表、の順に講義を進めていきます。また、講義の理解を深めるために、計算演習を多く取り入れる予定です。

この講義を終えることによって、日商簿記検定3級程度の簿記の知識を得ることができ、財務諸表論、会計学原理、株式会社会計、原価計算システム、管理会計論、税務会計、監査論、経営分析といった科目を受けるための基礎が形成されます。

【講義計画】

1. 複式簿記の基礎
 - (1) 簿記の基礎概念
 - (2) 資産・負債・資本と貸借対照表
 - (3) 収益・費用と損益計算書
 - (4) 簿記上の取引
 - (5) 仕訳と勘定記入
 - (6) 仕訳帳と総勘定元帳
 - (7) 試算表の作成(その1)
 - (8) 元帳の締切りと財務諸表の作成
 - (9) 精算表の作成(その1)
2. 取引の処理
 - (10) 現金と預金
 - (11) 商品売買
 - (12) 売掛金・買掛金
 - (13) その他の債権・債務
 - (14) 手形(その1)
 - (15) 手形(その2)
 - (16) 有価証券
 - (17) 固定資産の取得・売却と減価償却
 - (18) 資本金
 - (19) 収益と費用の見越し・繰延べ
 - (20) 試算表の作成(その2)
 - (21) 決算整理手続
 - (22) 精算表の作成(その2)

【成績評価の方法】

期末試験で評価します。

【教科書】

加古宜士・渡部裕亘(編著)『新検定 簿記ワークブック 3級商業簿記』中央経済社、2003年。

その他、適宜レジュメを配布します。

【参考文献】

中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋(共著)『現代簿記論』中央経済社、1992年。

その他の参考文献については、必要に応じて講義の中で提示します。

科 目 名			
証券論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	松 尾 順 介

【講義概要・学習目標】

証券市場というと特別な近寄りがない世界と考えている人が多い。確かに、そのような面はあるが、近年証券市場は急速に身近なものとなっている。皆さんが就職するのは、多くは株式会社であり、株式や株式市場と関係している。大企業だけでなく、ベンチャー起業家にとっても、証券市場は樹木の根のような不可欠な要素である。また、従業員も社員持ち株制度やストックオプション制度で、株式を持つことが多くなった。さらに、インターネットで一般の人々が株式投資に参加することも急速に増えてきている。他方、フィナンシャルプランナーや税理士・会計士を目指す学生にとっても、証券市場の知識は必要不可欠である。本講義は、証券市場の基本的な仕組みや制度の理解を目的とする。講義内容は、株式市場、債券市場、証券化関連市場に大別される。前期では、株式の基本からデリバティブまでを、後期では債券の基本から証券化までを対象として講義する予定である。

【講義計画】

I. 株式市場

1. 株式の基本的知識
2. 株式発行市場
3. 取引所における取引システム
4. 店頭市場における取引システム
5. 新しい取引システム
6. 株価と投資尺度
7. デリバティブ取引

II. 債券市場

1. 債券の基礎知識
2. 債券発行市場
3. 債券流通市場

III. 証券化

【成績評価の方法】

期末テストで評価する。ただし、毎回の質問状のうちよい質問状は期末評価に加点する。なお、出席点は一切考慮しない。

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

【備考】

<02~04生>

共通自由科目として、B生対象外

科 目 名			
商法 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	瀬 谷 ゆり子

【講義概要・学習目標】

商法のうち、経済社会における中心的な法主体としての会社に関する法規整の理解を目指す。

会社の設立、その構成と運営のルール、さらには解散に至るまでの基本的な法制度を一貫して学修することは、経済社会に身を置くものにとって有益であり、また必要であると考え。とはいえ、経済社会の動向に影響されることの多いこの分野は、現在に至るまで頻繁に法改正が行われており、さらに大改正が間近に迫っている。そこでこうした状況をふまえ、それぞれの法改正の背景、意義及び評価を検討しつつ、法律上あるべき会社としての姿に迫ることをも企図している。

民法は履修済み(あるいは履修中)であることが望ましい。

【講義計画】

概ね、次に掲げる講義計画に沿って進めるが、その時々話題となっている具体的な事例や会社関係の事件を適宜取り入れて、できるだけ新しい素材を使った授業をしたい。なお、会社法改正作業が引き続き進行しているため、その動向も盛り込んでいくつもりである。

1. 会社とは 会社の区分
2. 株式会社の設立手続
3. 株式、株主権
4. 株式会社の組織と運営
5. 株式会社の資金調達
新株発行・社債発行
6. 株式取引の仕組みと法規制
7. 会社の解散及び清算
8. 企業再編
合併、営業譲渡、会社分割、株式交換、株式移転
9. 企業組織に関する法改正

【成績評価の方法】

試験の方法による。なお、授業中、2～3回確認のためのクイズを行い、これも評価に加算する。

【教科書】

酒巻俊雄・上村達男編『会社法』（青林書院）

『会社法案条文集』（商事法務）

毎回必ず、最新版の六法を持参すること（出版社は問わないが、昨年度のものでも使えません）。

【参考文献】

授業時間中に適宜紹介する。

科 目 名			
商法Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4	吉 見 研 次

【講義概要・学習目標】

この講義では、商法のうち会社法について講述する。会社法といえは会社のすべての法律問題を扱うものと誤解されがちだが、実際には会社法の守備範囲はかなり限定的なものである。具体的には[講義計画]に記した通りであり、学生諸君にとってはいかにも疎遠な内容と思われそうである。さらに、他の法律と比較して煩瑣で技術的な規定が多いのも事実である。こうした会社法になお強い関心を持ち、かつ知識欲の旺盛な学生諸君の受講を期待したい。

毎授業時に『六法』を携帯すること。なお私語は厳禁。その他受講時の留意事項については、最初の授業時に説明する。

【講義計画】

I 会社法総論

- 1) 会社の法的性質
- 2) 会社の種類
- 3) 法人成り

II 株式会社法

- 1) 設立〔設立手続、定款、仮払込等〕
- 2) 株式〔株主の権利義務、株式譲渡、自己株式〕
- 3) 株主総会〔総会の権限等、総会決議、決議の瑕疵〕
- 4) 取締役・取締役会〔取締役、取締役会・代表取締役、取締役の義務、取締役の責任〕
- 5) 監査役・会計監査人
- 6) 委員会等設置会社
- 7) 資金調達〔新株発行、社債〕
- 8) 計算〔計算書類、資本・準備金、利益配当〕
- 9) 基礎的変更〔合併・営業譲渡、分割等〕

III その他の会社法

*平成17年予定の会社法全面改正の結果、計画を一部変更する可能性がある。

【成績評価の方法】

正誤文選択等による短答式の学期末テストを予定している。

【教科書】

青山善充・菅野和夫編『ポケット六法 平成18年版』（有斐閣）

*他社の『六法』でも可。

*平成18年版が出版される10月中旬までに、最初の授業時に指示する。

【参考文献】

授業時間中に適宜紹介する。

科 目 名			
商法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	牛 丸 與 志 夫

【講義概要・学習目標】

わが国において、手形および小切手が、企業の支払い手段として重要な役割を果たしている。そこで、講義では、手形および小切手の法規制の基本的な知識と応用力の取得を目標とする。

【講義計画】

手形のうち約束手形につき、その振出、裏書、支払いの順番で講義を行う。その後、為替手形の特殊性、小切手の特殊性について、講義を行う。講義では、練習問題を解きながら、行う。

【成績評価の方法】

期末試験で評価する。

【教科書】

①坂井隆一著『手形法・小切手法要論』（法律文化社発行）

②青山善充・菅野和夫編『ポケット六法（平成17年度版）』（有斐閣発行）

さ
行

科 目 名			
商法Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	瀬 谷 ゆり子

【講義概要・学習目標】

商法総則及び商行為法を対象とする。商法総則は主に企業組織に関する通則的な規定として、また商行為法は企業取引に関する通則的な規定として位置づけられる。基幹科目としての民法を学修したものが、この分野の学修をすることで、企業に特有のルールの必要性を認識し、かつその内容を理解することを目的とするものである。

したがって、民法に関し総則の部分は履修済みであることが望ましく、契約の部分を履修済み(履修中)であれば、とりわけ商行為法の理解に有益です。

【講義計画】

概ね、以下のような順で行う。

1. 商法とは 商法の特徴
2. 商法の適用範囲 商人と商行為
3. 商号
4. 商業登記
5. 組織と人 商業使用人
6. 商業帳簿
7. 民法と商法の交錯
 商事売買に関する法制度
 交互計算
8. 様々な営業 代理商、仲立ち、問屋
9. 各種保険
10. 普通取引約款

【成績評価の方法】

試験の方法による。なお、授業中、2～3回確認のためのクイズを行い、これも評価に加算する。

【教科書】

國友順一・西尾幸夫編著『商法入門』(嵯峨野書院)
最新の六法(必ず毎回持参すること)。

【参考文献】

授業時間中に適宜紹介する。

科 目 名			
情報科教育法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	藤 間 真

【講義概要・学習目標】

ますます進展する情報化社会にあつて、高等学校における普通教科・専門教科「情報」においては、

①課題や目的に応じて必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況を踏まえて発信・伝達できるような情報活用の実践力、

②情報手段の特性の理解、情報の適切な処理、自らの情報活用を評価・改善するための科学的な理解、

③社会生活の中で情報や情報技術がもつ役割と影響を理解し、情報モラルと情報に対する責任を自覚し、情報社会の創造に参画する望ましい態度を系統的・体系的に習得・育成させることが求められている。

この授業においては、その教育目標を達成するために、教科構造、ねらい、内容、指導法について系統的・体系的に理解するとともに、授業実施に当たって必要とされる指導計画、教材研究、授業設計、実施、評価、改善等に関する理解・能力を体験的に習得する。授業の形態は、講義、演習、模擬授業を組み合わせる展開する。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていることを前提とする。

【講義計画】

- ・ IT革命の現状と展望
- ・ 初等中等教育における「情報」教育の役割と課題
- ・ 「情報」の教科構造
- ・ 学習指導要領における普通教科「情報」の目標と内容
- ・ 学習指導要領における専門教科「情報」の目標と内容
- ・ 「情報」の授業の実践
- ・ 年間指導計画の作成
- ・ 単元指導計画の作成と内容の取り扱い
- ・ 教材研究の実践
- ・ 学習指導案の作成
- ・ 模擬授業及び評価と改善
- ・ まとめ

【成績評価の方法】

講義への参加、課題への取り組み、期末課題、模擬講義等を総合して評価する。

【教科書】

高等学校学習指導要領解説 情報編 開隆堂出版

【参考文献】

- 情報科教育法 岡本敏雄 丸善
- 情報科教育法 大岩元 オーム社
- 情報科教育法 河村一樹 彰国社
- 情報科教育法 本村猛能 学術図書出版

その他講義の進行状況に応じて指示する。

科 目 名			
情報化組織論 (旧システム設計)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	牧 野 丹奈子

【講義概要・学習目標】

情報化社会の今日、企業には新しい知識を次々と生み続けることが求められている。しかし、画期的な知識を生み続けることは易しいことではない。

では、どのような組織ならば、新しい画期的な知識を次々と生み出せるのか。どのような組織構造や職場が望ましいのか。

このような問題に対して、企業組織をひとつの“システム”とみなしながら取り組むことが、本講義の学習目標である。

つまりこの講義では、“情報化社会では、どのような組織が成功するのか”を、システム論を用いながら学習することになる。

【講義計画】

1. 情報化社会で企業に必要な能力とは何か（自己組織化経営）
2. 情報化社会で個人に必要な能力とは何か（個人自律化）
3. 組織をどのようにとらえるか（組織の二重構造）
4. どのような職場がよい職場か（「自律性」と「関係性」）
5. 情報と物質とのちがひ

【成績評価の方法】

試験とレポートなどの総合評価によっておこなう。

【教科書】

『経営の自己組織化論－装置と行為空間』牧野丹奈子 日本評論社

【参考文献】

その都度、参考文献を紹介する。

科 目 名			
情報機器論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	藤 間 真

【講義概要・学習目標】

近年の図書館は、単なる紙の集積ではない。色々な情報機器によって装備されている。そのことは、本学の図書館に1歩入って周りを見渡すだけでわかるであろう。言い換えると、情報機器に関する知識はこれからの司書にとって不可欠の知識である。

本講の目的は図書館における情報機器に関する基本的な知識の修得である。単なる現状追認に終わらず、司書としての人生に役立つよう本質的な理解を目指す。そのために、単純な一方通行の講義ではなく、主体的に自分の頭で考えることを要求する講義運営を目指す。

具体的な計画は授業計画欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と講義の進展の状態に応じて変更することもある。また、図書館やICTに関する基礎的な知識は保持していると言う前提で講義を行う。

なお、講義の第二回目に最初の課題提出を要求する。詳細は夏休み前に教務課の掲示板に掲示するので見落とさないこと。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようにしていることを前提とする。

【講義計画】

- ・本講義で要求するレポートのレベルについて
- ・情報を機械で扱うとは
- ・図書館学の五法則と情報機器
- ・図書館で使われる情報機器
- ・情報処理システムの基礎知識
- ・パソコンの基礎知識
- ・視覚機器とプレゼンテーション

【成績評価の方法】

学期末レポートを主に、平常成績を加味し総合的に判断する。

【参考文献】

進行状況に応じて指示する。

尚、講義に必帯とはしないが、

志保田務・平井尊士 編著 図書館と情報機器・特論：情報メディアの活用 第一法規に目を通すことは要求する。

科 目 名			
情報検索演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	8月集中	1	都 築 泉

【講義概要・学習目標】

図書館の利用者に対するサービスとして、オンライン・オンディスクのデータベースの提供は、昨今必須である。データベースを利用して種々の情報を引き出す業務を担当する専門家はサーチャー（インフォメーション・スペシャリスト）と呼ばれ、大学図書館・公共図書館・企業内図書館などで活躍している。一方、図書館の役割としては、情報管理者としての立場から利用者が利用しやすい環境を整備することが求められる。ここでは、1級と2級の上級サーチャーの前段階としての情報検索基礎能力試験（（社）情報科学技術協会が行う）を目標において、実践を交えながら学習する。

当講義の受講には、第1回の講義までに次の条件を満たしておくこと。

1. E-mailアドレスを取得しておくこと（学内LANのそれでもよい）。
2. パソコンキーボードの操作・入力ができること。

【講義計画】

1. ガイダンス 情報検索基礎能力試験の概要
2. データベース概論、情報の検索と利用に関する知識
3. 情報検索の基本1（主題分析、キーワード、一次情報と二次情報）
4. 情報検索の基本2（検索式、コマンド、コマンド不要の検索方法）
5. 情報検索の実際1－新聞記事、雑誌記事、企業情報
6. 情報検索の実際2－科学技術情報
7. 情報検索の実際3－特許・商標
8. 情報検索の実際3－人物情報、生活情報、趣味、その他
9. 海外のオンライン情報検索システム
10. インターネットと商業データベース
11. 情報の活用、情報検索担当者の企業での役割
12. 最終試験とまとめ

【成績評価の方法】

テスト 30%
課題 40%
出席 30%

【教科書】

「情報検索の基礎知識」（情報科学技術協会） 2000円

【参考文献】

情報活用術：情報検索 情報処理の楽々実行」（学芸図書） 2300円
編著者：志保田 務・平井尊士・中崎修一

「最新オンライン情報源活用術」（日外アソシエーツ） 2000円

科 目 名			
情報検索演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	1	志保田 務

【講義概要・学習目標】

現代社会は、情報化、コンピュータ化のただ中にある。オンライン、オンデスクのデータベースは図書館にとって常識化している。データベースに関する知識と、その扱いについてはここで学ぶ。さらに検索の専門家サーチャーへの登竜門となる情報検索機器能力試験をも目指す。

各分野の専門家によるインテグレーション授業として、INFOSTA（情報科学技術協会）の中心メンバーの指導を受ける。第2回目以降の授業では、情報センターのコンピュータ演習室を使用する。

この授業の受講を始めるには、第1回講義までに、次の条件を満たしておくこと

1. パソコンキーボードの操作、入力ができる。
2. E-mailの受発信が出来る。

【講義計画】

- 1 情報検索演習概説
- 2 情報処理基本技術
- 3 検索式（コマンド）
- 4 一次資料と二次資料
- 5 図書情報、雑誌・新聞記事の検索
- 6 企業、人物情報とその検索1（日本のDB）
- 7 企業、人物情報とその検索2（外国のDB）
- 8 医学や苦学情報とその検索
- 9 特許情報とその検索1
- 10 同1
- 11 生活情報とその検索
- 12 情報検索と英語
- 13 サーチャー試験案内1
- 14 同2
- 15 まとめ

【成績評価の方法】

テスト50%
課題 40%
出席 10%

【教科書】

特には定めない。

【参考文献】

図書館の指定図書コーナーを見てください。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
情報検索演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期	1	中 崎 修 一

【講義概要・学習目標】

現在、多様化した情報資源を活用する能力は必須となっている。特にネットワークを利用することで、場所を移動することなく、世界中の様々な情報源から必要な情報を瞬時に収集できるようになった。

本演習では、情報の読み方や多種多様な情報の検索を通じて、情報源の調査、情報収集の手法と多様化した情報源へのアクセス法の習得を図ると同時に、実践的な技術の習得を図ることを目的とする。

毎回の課題提出を電子メールで行うため、基本的なパソコンおよび電子メールの利用法を習得していることを前提とする。

【講義計画】

1. 情報化社会と情報メディア
2. 情報検索概説
3. 一次情報と二次情報
4. データベース基礎
5. 情報検索の論理
6. インターネットと情報検索
7. 情報検索の実際：図書情報
8. 情報検索の実際：雑誌情報
9. 情報検索の実際：新聞情報
10. 情報検索の実際：学術情報
11. 情報検索の実際：その他
12. まとめ

【成績評価の方法】

課題提出、筆記試験、出席から総合的に判断する。

【教科書】

志保田務・平井尊士・中崎修一編著『情報活用術：情報検索・情報処理の楽々実行』（学芸図書）
ISBN4-7616-0342-9

【参考文献】

志保田務・平井尊士編著『情報機器論・特論：メディアの活用12章』（第一法規）
『情報検索の基礎』第2版（情報科学技術協会）

科 目 名			
情報検索論 (旧経営情報学特講－情報検索論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	志保田 務

【講義概要・学習目標】

情報検索について、文系、社会科学系からのアプローチをする。「情報検索」がどういうものを指し、どういったところで活かされているか、今日的にどのようなかちを有するかを論じる。その上で、技術的な把握、たとえば、各種検索エンジン、ゲートウェー、ポータルサイトなどの評価を行う。技術実習は、人数的な問題から、宿題にすることが多いが、これへの応答を学内ホームページNile2lesson tshihota及びメールで行う。なお、講義計画の「5」～「14」は<講義>-<演習の>の2本立てである。

【講義計画】

各、2回程度

- 1 情報検索の意味的理解：定義、範囲、用語など
- 2 情報検索の歴史面の理解：コンピュータ以前の情報検索
- 3 現代社会と情報検索：コンピュータピア、生活と情報の検索
- 4 実業、経営における情報検索の位相
- 5 情報検索の空間（講義1、演習1、以下「14」まで同様）
- 6 情報と著作権問題
- 7 検索ルート：検索エンジン、有料・無料サイトなど
- 8 検索機器：オンライン、恩デスク、モバイル、携帯電話など
- 9 検索内容パターンと、検索方法パターン
- 10 ファクトリトリバルとドキュメントリトリバル
- 11 ファクトデータベースとレファレンスデータベース
- 12 書誌情報
- 13 図書館情報
- 14 索引、索引作り
- 15 テスト

【成績評価の方法】

テスト 60%
ノート提出(web) 30
出席 10%

【教科書】

とくには定めない。

【参考文献】

図書館の指定図書コーナーを見てください。

【備考】

<02~05生>
共通自由科目として、B生対象外

科 目 名			
情報サービス演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	1	谷 本 達 哉

【講義概要・学習目標】

情報のインフラストラクチャーとしての図書館では、人々が日常生活の中で必要とする様々な情報要求に対して、図書館の情報資源を活用して個別的に対応する情報サービスを提供しています。その一つにレファレンスサービスと呼ばれるサービスがあります。この科目では、講義科目「情報サービス概説」で習得した知識に基づいて、図書館のレファレンスサービスの実際について考えます。特に演習方式の授業によって、図書館員が個々の利用者から寄せられるそれぞれの情報ニーズ（質問）に対してレファレンスブック（参考図書）と呼ばれる図書館の資料を使って情報（回答）を提供するという、実践的なレファレンスサービスの処理過程について学んでいきます。

【講義計画】

図書館のレファレンスサービスについて、次のようなテーマを中心に学びます。

- レファレンスサービス入門
- 検索の種類と情報源のタイプ
- 質問と情報の結びつけ
- ことばに関する質問
- 事柄に関する質問
- 図書・図書館に関する質問
- 人物・団体に関する質問
- 地理に関する質問
- 歴史に関する質問
- 図書・出版に関する質問
- レファレンスブックの解題

【成績評価の方法】

期末試験および授業中の演習課題、出席や受講態度を重視します。また、資格課程科目ですから、授業への出席は勿論、履修にあたって積極的に熱心な姿勢を求めます。

【教科書】

西田文男監修『情報サービス・概説とレファレンスサービス演習』学芸図書、1999（第二版・2005）

【参考文献】

適宜、講義の中で紹介します。

科 目 名			
情報サービス概説			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	西 田 文 男

【講義概要・学習目標】

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等について総合的に解説する。

【講義計画】

1. 情報サービス一般の広がりとは図書館が行う情報サービスの位置づけ
2. 図書館における情報サービスの意義と種類（レファレンスサービス、レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス等）
3. 情報及び情報検索行動についての基本的理解
4. レファレンスプロセス（レファレンス質問の受付から回答まで、マニュアル検索とコンピュータ検索を含む）
5. 情報検索サービスの方法、プロセス・評価
6. 主要な参考図書、データベースの解説と評価
7. 参考図書及びその他の情報源の組織（二次資料の作成にも触れる）
8. 各種情報源の特質と利用法

【成績評価の方法】

定期試験の成績を主に、出席状況も加味して評価する。

【教科書】

西田文男監修、志保田務・平井尊士編著「情報サービス：概説とレファレンスサービス演習」学芸図書

【参考文献】

その都度指示する。

科 目 名			
情報システム論 (旧経済学特講—情報システム論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	芦 田 昌 也

【講義概要・学習目標】

社会の基盤施設や経済活動における必須の道具から、個人での情報活用のための文房具に至るまで、情報システムは私たちの生活に深く入り込んでいる。この講義では、こうした情報システムを開発する側と利用する側の両方の観点から考察していきたい。まず、前半部では、情報システムの一般的基礎知識に関して講義する。可能な限り最先端の情報技術の動向についても紹介していきたい。後半部では、データベースシステムに焦点をあてながら、情報システムの効率的な設計と管理運用について講義する。

【講義計画】

1. システムとは
2. 情報システムとは
3. 情報システムの利用形態
4. 情報システムの実例
5. 情報システムの変遷
6. 情報システム技術
7. 情報システムの設計と管理
8. 情報システム技術の将来展望
9. データベースとは
10. データベースシステムの基本構成
11. データモデル
12. データベースの設計
13. 関係データベースとSQL
14. データベース管理システム
15. 分散型データベースと集中型データベース
16. 情報検索システムの実現と効率化
17. インターネットの情報収集方式
18. インターネットの情報検索方式

【成績評価の方法】

試験の成績により評価する。

【教科書】

特になし。必要に応じて、資料を配布する。

【参考文献】

坂村 健 「大人のための「情報」教科書」数研出版
 浦 昭二・市川照久（共編）「情報処理システム入門 [第2版]」サイエンス社

科 目 名			
情報と職業			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	田 村 昶 三

【講義概要・学習目標】

講義概要

情報を活用して「情報社会」を生きるために、どう職業選択するか。「職業選択する立場」から「情報化の進展とその影響」を理解することが目的である。情報産業の現状を把握するとともに、職業としての情報分野における課題について考える。情報関連分野で「働く」ことの意味（価値観や勤労観）について考える。

- ①コンピュータ知識は陳腐化する中で「生きる力」の根底に有るものを探求。
- ②コンピュータ技術以前の「コミュニケーション力」（情報収集力、情報分析力、伝達力、説得力）それ自体から「情報産業で働くために」を学びとる。
- ③情報リタラシー（国際感覚、環境適応、聞き取る力、判断力、情報を整理する力、常識、理解力）を習得する。
- ④職業選択と職業指導の方法論と具体的な実践（コンピテンシーとエンプロイアビリティ）。
- ⑤チームマネジメント

4部構成とする。

第1部 情報化社会の進展と職業

第2部 情報ビジネスと経営マネジメントと職業

第3部 職業としての情報教育

第4部 eビジネスと個人の職業選択

学習目標とゴール

高校生がITを利用するために必要な知識、技術、倫理の理解を深める。同時に情報分野への就職希望者を職業指導ができる。（普通高校 普通教科「情報」の授業プランづくりと実践のために）

- 1) ITの発達と現状と今後の課題が理解出来る。
- 2) 近年の職業・労働の変化の特徴が理解出来る。
- 3) ITの発達と職業・労働の変化の関係について述べる事が出来る。

【講義計画】

第1部 情報化社会の進展と職業（「知の社会」）

1. 情報化の進展と社会に対する影響。産業構と意識構造の変化
2. 職業と情報リテラシー
3. 情報伝達手段の変遷と職業の変化。
4. 情報化社会の進展と問題点の整理（1925年の「知の社会」の生き方）

第2部 情報ビジネスと経営マネジメントと職業（現代企業論）

5. 情報・通信産業の現状と課題
6. IT活用によるビジネスモデルの現状と課題 情報分野の人材需要（ITSS）
7. 企業を知る—企業戦略・企業組織・経営資源
9. 企業を知る—企業の管理と実践活動[コントロールとオペレーション]
10. 職業観・勤労観・職業倫理と労働問題 10-2. 優良企業の経営マネジメントの実例に学ぶ

第3部 職業としての情報教育

11. 情報・通信産業の業務の特徴と課題（プロジェクト）マネジメント
12. 情報分野の人材マネジメント（エンプロイアビリティコンピテンシー）
13. 春期テスト
14. 就職の実践計画—業界研究と自己分析 NEETの現状理解
15. オペレーション能力（操作）とコンピュータ・リタラシー（IT活用に求める人間の知恵）

第4部 情報・通信産業（eビジネス）と個人の職業選択

16. 情報技術者の職種と業務・勤労観
17. 現代企業における企業と個人と組織
18. 知の社会の職業と求める人材
19. 知の社会における個人と組織と社会の関係
20. メディアリタラシーと個人と組織と社会
21. eビジネスと個人の生き甲斐

さ
行

- 22. 職業指導実践—就職活動の実践計画
- 23. 職業指導実践—自己分析のやり方とエントリーシートの書き方
- 24. 職業指導実践—業界・企業研究のやり方
- 25. 総まとめ

【成績評価の方法】

コンピュータ利用による実践力の育成と思考力とコミュニケーション能力の伸長を重点評定する。

- 1. 出席を重視する。(実践力を育成するため) 毎週、コンピュータを使い授業の要旨を報告書にまとめ提出。
- 2. 学期の中間に2回〔春期と秋期のレポート2回提出〕。
- 3. 春期末試験と秋期末試験。等の三項目の総合点により評価する。

【教科書】

教材は、毎週プリントで配布する。

【参考文献】

- 1. 講義に関する参考資料はプリントして都度わたす。
- 2. 毎週、1冊参考書を紹介する。
- 3. 「高等学校学習指導要領解説 情報編」(開隆堂出版)

科 目 名			
職業指導			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	松 原 勇

【講義概要・学習目標】

本講座は、経営革新時代の商業科教員を目指す学生を対象にした「高等学校教員(1種)免許取得」のための必修科目である。将来商業教員に携わる者は、職業人として大志を抱き、優れた職業倫理を身につけ、職務に情熱を傾け、自覚と責任ある使命感に満ち、魅力ある知性と感性の人間力を磨き、持てる能力を最大限に発揮できる知識・技術の習得が求められる。本講では、その趣旨を踏まえ、世界経済に対応できる職業意識の高揚を目指し、職業観を明確にして職業能力の適正を伸長させ、職業指導の重点的な本筋を究明して講義する。併せて、「期待される新入社員像」「創造力・表現力」等の方法論の実践指導も図る。なお「共通自由科目履修者」にも、職業人としての使命感を持ち「優れた求心力のあるオンリーワンを目指す」厳しい姿勢の受講生をのぞむ。

【講義計画】

- 1 学校教育と職業指導
- 2 職業指導の必要性
- 3 就職活動への指針・実践
- 4 期待される新入社員像
- 5 学生生活と社会生活の相違
- 6 働くことの意義
- 7 ビジネスマンの心得
- 8 ビジネスの上手な進め方
- 9 コミュニケーションマナー
- 10 来客の応対と訪問の仕方
- 11 職場の人間関係
- 12 創造力・表現力の実践指導
- 13 トップビジネスマンを目指して

【成績評価の方法】

主として、出席を厳しく重視して評価する。なお、コミュニケーション能力の実践面、期末試験等も勘案のうえ、総合評価とする。

【教科書】

松原 勇(著)「経営革新時代の新ビジネスマンの基礎知識」(ぎょうせい)

科 目 名			
資料特論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	松 永 俊 男

【講義概要・学習目標】

行政資料、郷土資料、および視聴覚資料のそれぞれについて、その特徴、収集、利用等を解説する。それぞれの専門の研究者によって講義が行われる。

【講義計画】

1. はじめに
2. 行政資料について
3. 情報公開制度について
4. 視聴覚資料について
5. 郷土資料について
6. デジタル資料の活用

【成績評価の方法】

講師それぞれの評価を総合して評価する。各講師の評価は、レポート、または授業後の小テストによって行われる。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
資料分類法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	吉 田 憲 一

【講義概要・学習目標】

「Books are for use」(インドの分類学者ランガナタンの図書館学の第一法則)との余りに当然と思われる命題も真となってまだわずか百数十年を経過するにすぎない。膨大な図書館資料を迅速かつ有効に利用できるためには、図書館資料の排架方法を知り、主題から資料にアクセス(検索)するための理論を会得することが第一に必要である。この主題検索の理論は、大別すると体系的に検索する分類システムとトピック的に名辞から検索する件名システムに分かれる。この科目では、分類システムを中心に両者を比較しつつ主題検索の基本的な考え方を学んでもらうことを目的とする。

【講義計画】

今日の多くの大学図書館で利用に供されているOPAC(オンライン閲覧目録)の時代にマッチした理論として考えていきたい。

ア)分類法

1. 資料分類の意義
2. 分類法の基礎理論
3. 分類表の構成原理および作成法
4. 世界の代表的な分類表
5. 日本十進分類法:その概要および構造
6. 相関索引等

イ)件名法

1. 分類法と件名法の相違
2. 件名標目表とシソーラス

【成績評価の方法】

出席および最終講義時のテスト結果で評価する。

【教科書】

木原通夫ほか著 『資料組織法 最新版』(第一法規出版)

【参考文献】

授業時に指定する。

科 目 名			
資料分類法演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	1	吉 田 憲 一

【講義概要・学習目標】

後期の演習（分類法）では、資料の内容（主題）にかかわる検索のための主題組織化の技術、つまり主題索引法（分類法および件名法）について、今日、日本の大多数の図書館で使用されている「日本十進分類法」（NDC）を用いて授業を進める。毎回、演習課題を課して、それへの解答作成を通じて、主題組織化の実際を学習してもらうことをねらいとする。「基本件名標目表」（BSH）についてもその概要を演習する。

【講義計画】

1. 主題分析と主題把握
2. 分類法
 - ①分類作業
 - ②一般分類規程
 - ③固有分類規程
 - ④各類演習
 - ⑤別置法・図書記号法
3. 件名法
 - ①件名作業概要

【成績評価の方法】

授業時に行う演習問題の解答レポートと出席およびテスト結果を総合評価する。

【教科書】

吉田憲一編著『資料組織演習 新訂版』（日本図書館協会）（JLA 図書館情報学テキストシリーズ10）

【参考文献】

日本図書館協会編刊『日本十進分類法 新訂9版』
日本図書館協会編刊『基本件名標目表 第4版』

科 目 名			
資料目録法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	北 克 一

【講義概要・学習目標】

図書館は資料・情報を収集・整理・保存し、提供する社会的記憶装置である。図書館活動を基礎で支える資料・情報の組織化につき、その意義の理解を進め目録法等の基礎知識を獲得すると共に、ネットワーク時代の資料・情報組織化の最新状況の理解を目標とする。ネットワークの進展と情報のデジタル化は、図書館という概念の「一般化」を及ぼし、図書館活動は、検索エンジン、ネットワーク出版、デジタル・アーカイブなど情報知識産業との競合・協同へと変化しつつある。図書館活動を支える目録法等の基礎知識の理解に止まらず、ネットワーク時代の資料・情報組織化の現状を講義する。聞き慣れない専門用語が頻出するが、挫けないで努力してほしい。

【講義計画】

1. 書誌コントロールと資料組織化の目的・意義・歴史
2. 目録の機能、目録規則の構成原理、その運用
3. 典拠コントロールの目的と機能
4. 書誌レコードと典拠ファイル
5. 機械化、総合目録、インターライブラリー・ローンへの展開
6. 電子ジャーナル、電子図書館、メタデータなど
7. まとめ

【成績評価の方法】

試験

【教科書】

木原通夫 [ほか] 著『資料組織法 第5版』第一法規出版、2002.4

* 司書科目「資料組織概説（分類）」と共通です。

【参考文献】

日本図書館情報学会研究委員会編『電子図書館』 勉強社、2001

井上如 [ほか] 著『学術情報サービス—21世紀への展望—』 丸善、2000

日本図書館情報学会研究委員会編『図書館目録とメタデータ』 勉強社、2001

科 目 名			
資料目録法演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	秋学期 秋学期	1 1	北 克 一

【講義概要・学習目標】

資料組織概説（目録）で学習した目録規則、典拠コントロールなどを目録作成の演習を通して、目録に対する理解・経験を深めることを目的とする。

実際に書誌ユーティリティを使用し、書誌データベース構築を基礎演習する。コンピュータを使用する演習になるので、キーボード入力、かな漢字変換、マウス操作などを事前に学習しておくことが望ましい。積み上げ学習なので、途中欠席をしないこと。各人の演習データの保存用に、新規のフロッピー・ディスク（3.5 インチ / 2HD）を必ず持参のこと。（半年間の演習成果を記録します。）

【講義計画】

1. カード目録作成演習と記述、標目概念の理解
2. 書誌ユーティリティのシステムと参加図書館の役割
3. 書誌レコード、典拠レコードの検索演習
4. 和図書所蔵登録・流用入力・新規入力演習
5. 洋図書所蔵登録・流用入力・新規入力演習
6. 和雑誌所蔵登録演習・洋雑誌所蔵登録演習
7. 典拠コントロール演習
8. OPAC構築演習
9. まとめ

【成績評価の方法】

提出演習課題と理解テストの総合で評価する。

【教科書】

北克一著『資料組織演習 改訂新版2刷』M. B. A. 2003. 7

【参考文献】

根本彰著『文献世界の構造』勁草書房. 1998.

科 目 名			
心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	冷 水 啓 子

【講義概要・学習目標】

これから心理学を学ぼうとする人たちは、「心理学」という学問領域に対してどのようなイメージをいだいているであろうか？

近年マスコミでよく取り上げられている「犯罪心理学」、「深層心理学」、「臨床心理学」、「カウンセリング」といった類のものがイコール「心理学」である（それら以外は、たとえ人間の「心」に関わりがあろうとも「心理学」とはみなさない）という強固な先入観（あるいは偏見）にとらわれているのが大勢ではなかろうか。もちろん、それらは「心理学」のなかで重要な分野として取り扱われているが、「心のしくみとはたらき」を研究する科学としての「心理学」の研究領域はそれだけではなく、きわめて幅広く学際的である。

わたしたちの日常的活動を例に考えてみよう。わたしたちは周囲の世界からさまざまな情報を取り入れ処理しながら、日常生活を円滑に営んでいる。しかし、普段何気なく行っている、見る、聞く、感じる、考える、覚える、理解する、判断するといった活動も、実に複雑な心のはたらきによるものであることがわかっていく。このように、外界から取り入れた情報を、必要に応じて加工、貯蔵、利用するという、人間における基本的な情報処理活動について研究する「認知心理学」というのも「心理学」の一分野である。そこで、この講義では、近年の心理学研究上のさまざまな知見・成果を概観しつつ、人間の心のはたらきについて総合的に理解していくことを目指す。

なお、授業に関連する資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などを通じて適宜提供する。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。

【講義計画】

1. 心理学とは何か？
 - 1) 心のしくみとはたらきを知る
 - 2) 心理学の研究手法
 2. 感覚と知覚
 - 1) 感覚・知覚のしくみとはたらき
 - 2) 見えの世界
 - 3) 錯覚現象
 3. イメージ
 - 1) イメージの世界
 - 2) イメージ・トレーニング
 4. 記憶
 - 1) 記憶のしくみとはたらき
 - 2) 日常の記憶、目撃者の証言
 5. 思考と言語
 6. 動機づけと情動
 7. 性格
 - 1) 性格の類型と特性
 - 2) 性格テスト
 8. 全体のまとめ
 9. 学期末試験
- [但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある]

【成績評価の方法】

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期末に試験を実施する。必要に応じて、簡単な実験・調査への参加やレポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】

教科書は使用しない。

【参考文献】

福祉士養成講座編集委員会（編）『心理学』（中央法規）
 金児曉嗣（編）『サイコロジー事始め』（有斐閣）
 中島義明（編）『メディアに学ぶ心理学』（有斐閣）
 大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会）
 梅本堯夫・大山 正・岡本浩一（編）『心理学—心のはたらきを知

るー』(サイエンス社)

【備考】

<02~05生>

共通自由科目として、SS・SW生対象外

科 目 名

心理学

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4	國 宗 多 恵
03	通期	4	

【講義概要・学習目標】

- 1 心理学の概要を理解させる。
- 2 乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。
- 3 心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。
- 4 心理的援助技法の概要について理解させる。
- 5 社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

【講義計画】

- 1 人間の心理学的理
 - 1) 欲求・動機づけと行動
 - 2) 感情・情動
 - 3) 感覚・知覚・認知
 - 4) 学習・記憶・思考
 - 5) 知能・創造性
 - 6) 人格
 - 7) 適応と適応異常
- 2 人間の成長・発達と心理
- 3 人間理解のための心理学理論と技法
 - 1) 基礎理論
 - ①精神分析
 - ②行動分析
 - 2) 測定と診断
 - ①発達
 - ②知能
 - ③性格
- 4 心理的援助技法の概要
 - 1) 心理療法(個別面接法・集団面接法)
 - 2) 家族心理療法
 - 3) 行動療法

【成績評価の方法】

筆記試験(前期・後期共)

【教科書】

「心理学」 鹿取広人(編集), 杉本敏夫(編集) 東京大学出版会
¥2,520(税込)

【備考】

<02~05生>

共通自由科目として、SS・J生対象外

科 目 名			
心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4	加 納 真 美
05	通期	4	

【講義概要・学習目標】

『心理学』を学びたいと考えている人に、心理学とはどのような学問なのかを理解してもらうことを目標とする。そのため、心理学全体の統合的な見取り図を示し、心理学がどのような日常の問題を、どのように明らかにしてきたかを考察していきたい。この講義では、特に進化の過程にある人間のしくみに関する解明と社会の中での人間という観点から、人間の発達と行動に関する解明を心がけたい。

【講義計画】

I心と適応（前期）

- 1 心理学とは何か
- 2 心の進化
- 3 心の発達
- 4 ライフサイクルと青年期
- 5 動機づけ
- 6 性格
- 7 知能

II心のしくみ（後期）

- 8 感覚
- 9 知覚
- 10 記憶
- 11 学習
- 12 脳の働き
- 13 社会の中の人
- 14 心と社会

【成績評価の方法】

期末の筆記試験、レポート、授業態度等を総合的に評価する。

【教科書】

『はじめて出会う心理学』長谷川寿一・東條正城・丹野義彦著
有斐閣アルマ

【参考文献】

- ・ジョージ・バターワース他著 村井潤一監訳、『発達心理学の基本を学ぶ』、ミネルヴァ書房、1997年
- ・尾見康博・伊藤哲司編著、『心理学におけるフィールド研究の現場』、北大路書房、2001年
- ・菊池 聡・谷口高士・宮元博章編著、『不思議現象 なぜ信じるとするのか、こころの科学入門』、北大路書房 1995年

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、SS・SW・J生対象外

科 目 名			
スピリチュアルケア			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	伊 藤 高 章

【講義概要・学習目標】

現代社会の新しいケア領域であるスピリチュアルケアについて、その必要性、構造、隣接領域との関係、限界などについて理解する。また、その専門職養成に関わる諸問題についても、事例等を通して理解する。

【講義計画】

以下のテーマを含む

1. 深層心理学とスピリチュアリティ
2. 社会構成論とスピリチュアリティ
3. 宗教とスピリチュアリティ
4. 日本文化とスピリチュアリティ
5. 医療現場におけるスピリチュアルケア
6. 福祉現場におけるスピリチュアルケア
7. 事故・災害におけるスピリチュアルケア
8. スピリチュアルケア専門職の養成

【成績評価の方法】

授業コメントシートの提出

学期末筆記試験

【教科書】

授業のはじめに指示する。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、SW生対象外

さ
行

科 目 名			
スペイン語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	ゴンザレス ダリオ
02	通期	2	Gonzales Dario

【講義概要・学習目標】

(学習目標) スペイン語に慣れ親しみ、基礎的な発音の習得や、初歩的な会話表現を身につける。

(講義内容) ラテン語から派生したスペイン語は、世界の数多い国々で使用されている。日本語と母音が類似していることもあり、音声面からは大変親しみやすい言語であるが、黙読でなく恥ずかしながら声をしっかり出して読む、話すことを心がけなければ、語学を身につけることが半減してしまうでしょう。

本講義では、まず正しい発音で文章を読むことから始まり、辞書を活用することにより語彙力、読解力を養います。又、実践的に使える会話表現を覚えます。

語学習得には、口頭反復練習が大切であるが、会話表現を豊かにする為に西和和西1冊になった小事典の携帯を必要とします。

【講義計画】

(前期)

- 1 スペイン語の発音と読み方
- 2 挨拶、自己紹介、時間や曜日の尋ね方等の初歩的な会話表現
- 3 辞書を活用しての簡単な文章の読解

(後期)

- 1 動詞や疑問詞を使つての作文練習
- 2 基本文型を応用した会話練習
- 3 ヒヤリングの力を身につける

【成績評価の方法】

小テストの平常点と出席点とで総合評価する。

【教科書】

辞書の携帯を必要とする。
プリント配布。

科 目 名			
スペイン語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	浅 井 るり子
02	通期	2	

【講義概要・学習目標】

スペイン語を学ぶことにより、スペイン語を話す国々の文化などにもふれ、異文化理解を深めるとともに、幅広い視野をもった国際人を育てる。日常会話から時事問題まで幅広い話題を取り上げ、積極的にコミュニケーションを図る態度を育てる。スペイン語の基礎をしっかりと学びながら口頭で積極的に日常的な会話の練習をし、実際役立つ簡単な表現など楽しく進めていく。

【講義計画】

文法の説明から始まり、それらを応用し日常会話に活かせる表現を練習し、グループごと会話の学習

【成績評価の方法】

積極的に授業に参加し、授業での会話や例文の完成度、文法が理解できているか、課題、会話文発表、授業内でのショートテスト。

【教科書】

” EL abecé del español” Naoji Nakayama HAKUSUISHA

【参考文献】

- 「新スペイン語入門」高垣政博著 NHK出版
- 「スペイン語の入門」瓜谷良平 白水社
- 「スペイン語ミニ辞典」宮本博司編 白水社
- 「しっかり学ぶスペイン語」桜庭雅子 貫井一美 ベレ出版

科 目 名			
スペイン語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	ゴンザレス ダリオ Gonzales Dario

【講義概要・学習目標】

(学習目標) 基礎的な知識を応用して、実践的に使えるスペイン語を目指す。

(講義概要) 英語に次いで世界の数多い国々で使用されているスペイン語は近年世界経済の動向・国際交流、観光の面から使用する機会が増えている現状から、まずコミュニケーションの出来るスペイン語を目指し講義を進める。

本講義では、視聴覚教材を活用することにより、スペイン語の全体的な流れを理解すると同時にヒヤリングの力をつける。又、旅行した時に直面する事柄を考えて学習していく。

学生諸君には、常時、西和和西1冊になった小辞典の携帯を必要とする。語学マスターの鍵は、授業に対する積極的な参加、恥を捨ててまず人前で話す、根気強く口頭反復練習をする等の各自の努力によると考える。

【講義計画】

(前期) 1. 空港にて

2. タクシー乗り場

3. ホテルのフロント

4. 銀行での両替

5. 聖家族教会

(後期) 1. 交通機関(地下鉄、バス)

2. 試着と買物

3. レストランでの注文

4. 郵便物の発送

5. 薬局、病院にて

【成績評価の方法】

小テストの平常点と出席点とで総合評価する。

【教科書】

辞書の携帯を必要とする。

プリント配布。

【参考文献】

宮城 昇(編)「スペイン語 ミニ辞典」(白水社)

ヘレン・デイヴィーズ(著)「絵で見る辞典スペイン語入門」(洋販出版)

科 目 名			
スペイン語Ⅱ b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	ゴンザレス ダリオ Gonzales Dario

【講義概要・学習目標】

(学習目標) スペイン語の基本的な知識を応用する力を伸ばしコミュニケーションの出来るスペイン語を目指す。

(講義概要) 本講義では、前年次に継続し基本的な知識を習得しながら、読解力、会話を身につける。その為には、単語を調べる地道な作業を怠ってはいけない。更に、基本文型を応用する能力を伸ばす為にも語彙数を増やすように努力することは大切である。以上の観点から西和和西1冊になった小辞典の携帯は必要である。又、人に聞き取れる声で話すことは会話の基本になるので、学生諸君には、口をしっかりと開けるように心掛けて欲しい。

国際的な感覚や、視野を広める為にもスペインや、中南米諸国の生活習慣や文化についても適宜触れて幅広く学習を進めていきたいと考えている。

【講義計画】

(前期)

スペイン語圏の生活習慣を紹介しながら日常会話の表現力をつける。

訪問先での応対、自己紹介の仕方、食事の仕方、フィエスタでの対応(誕生日、クリスマス)等。

(後期)

音楽、ビデオ、童話、雑誌などの補助教材を活用することにより、スペインや中南米の文化に触れながらヒヤリング力、読解力を身につける。

【成績評価の方法】

小テストの平常点と出席点とで総合評価する。

【教科書】

辞書の携帯を必要とする。

プリント配布。

【参考文献】

宮城 昇(編)「スペイン語 ミニ辞典」(白水社)

ヘレン・デイヴィーズ(著)「絵で見る辞典スペイン語入門」(洋販出版)

科 目 名			
生産管理論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	鬼 塚 光 政

【講義概要・学習目標】

<概要>生産管理論は、企業における生産システムの構築と運用に関する諸問題を考察する経営管理論の各論的科目である。講義では、18世紀後半に起きた産業革命期英国・仏国に芽生え、19世紀末から米国で本格的に形成され、さらに1970年代以降日本で新たに展開した「近代的生産管理」の生成・発展の過程を経済的・社会的・技術的背景を踏まえて段階的に跡付け、各段階の代表的な生産管理方式の構造、特徴、意義と限界を講述する。その場合、市場経済体制下の生産管理の基本的性格とその考察方法を明確にした上で、主題の生産管理の生成・発展史の考察に入る。

<目標>

- (1) 生産管理の基本的性格と分析視角
- (2) 生産管理の分析に必要な基礎概念
- (3) 各発展段階の代表的な生産管理方式の構造、特徴、並びに意義と限界
- (4) 経営工学の関連諸手法とそれらの生産管理への適用
- (5) 生産・生産管理の発展と社会・自然との関係

【講義計画】

- (1) オリエンテーション (1回)
- (2) 生産管理の基本的性格と分析視角 (6回)
- (3) 中間試験 (1回)
- (4) 生産管理の生成と発展 (18回)

【成績評価の方法】

中間・期末試験の成績、出席状況、レポートなどの提出状況。

【教科書】

追って指示する。

【参考文献】

追って指示する。

科 目 名			
政治学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	村 山 高 康

【講義概要・学習目標】

政治学の内容は多岐にわたり、またその定義も一言では定め難い。そこで本講義は、以下のような限定された内容で進める。前半は、時代を近代に限定し、地域的には西欧の政治思想や学説を背景にして、国家の特質や近代デモクラシーの原理を中心に論じる。単なる過去の問題ではなく、日本をはじめ現代世界の直面する政治問題を考えるための基礎的な講義を目指す。講義は近代西欧の歴史的背景をたどりつつ行うので、歴史への興味をもって受講されたい。後半は、大変動の時代を迎えた現代世界の政治的課題を、国際政治システムの形成と変遷、近代主権国家の変貌、民族紛争や環境問題、現代の政治思想、日本の行政機構や政策形成などを、多面的にとりあげて考察する。多くのテーマをとりあげるが、現代世界の様々な政治的課題の底に流れる本質的な問題をクローズ・アップできるような講義を行う。前半と後半では講義スタイルは異なるが、学説・理論・思想・制度など抽象度の高い前半の講義を十分に咀嚼することが重要である。

【講義計画】

1. 近代国家の成立と新たな政治原理の創出
2. 近代国家の発展と近代デモクラシーの形成
3. 近代国家における政治制度の発達
4. 近代市民社会と市民政治理論の成立
5. 日本の政治—近代化の諸問題
6. 国際政治システムの形成と変遷
7. 現代社会における主権国家の変貌
8. 民族紛争・南北問題・環境破壊などへの国際政治的アプローチ
9. 現代世界の政治思想の諸潮流
10. 日本の政治—行政機構と政策決定過程の分析

【成績評価の方法】

レポートおよび論述試験による評価

【教科書】

特定の教科書は使用しない

【参考文献】

講義の中で随時指示する

科 目 名			
政治学原論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	捧 堅 二

【講義概要・学習目標】

このあいだテレビで勝野誠彦が「選挙に行かんアホがおる」と言っていた。暴論である。「選挙に行くか行かんか」は自分で考えればよるしい。政治について自分で考える力を養うのを支援するのが政治家の役割だと思う。多少難しいかもしれないが、政治学の基本の部分正面から講義したいと思う。

理論的には、今日のアメリカ政治学の行動論、アメリカ多元主義、合理的選択理論を退け、国家や支配、権力や闘争を重視し、ヴェーバーやギデンズに学ぼうとする立場から講義をする。政治の現実を直視しつつも、よりよき未来について思考したい。

【講義計画】

- 1 政治学の役割
- 2 政治学の起源
- 3 権力と人間
- 4 権力と国家の起源
- 5 少数者支配
- 6 ヴェーバーの理論
- 7 支配の矛盾
- 8 国家
- 9 政府と行政
- 10 イデオロギー
- 11 政党
- 12 利益集団
その他

【成績評価の方法】

- ①レポート回数
- ②定期試験を実施

【教科書】

使用しない

【参考文献】

講義の際に随時あげる。

科 目 名			
精神医学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	岡 田 章

【講義概要・学習目標】

- 1 精神医学、精神医療の歴史を理解させる。
- 2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。
- 3 精神医学の概念について理解させる。
- 4 精神医学の診断の基本的な方法について理解させる。
- 5 代表的な精神障害について理解させる。
- 6 治療の概要について理解させる。
- 7 病院精神医学および地域精神医学について理解させる。

【講義計画】

- 1 精神医学の概念
 - 1) 精神医学の概念
 - 2) 精神医学の成因と分類
- 2 脳および神経の生理・解剖
- 3 精神症状学
 - 1) 精神症状
 - 2) 状態像
 - 3) 巢症状（神経心理学的症状）
- 4 精神医学的診断学
 - 1) 診断の手順と方法
 - 2) 心理検査と身体的検査
- 5 精神医学的治療学
 - 1) 身体的療法
 - ①薬物療法とその副作用
 - ②電気ショック療法
 - 2) 精神療法
 - 3) 環境・社会療法
 - 4) 精神科リハビリテーション
- 6 代表的な精神障害
 - 1) 症状性を含む器質性精神障害（老人性痴呆を含む）
 - 2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害
 - 3) 統合失調症、統合失調症型および妄想性障害
 - 4) 気分（感情）障害
 - 5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
 - 6) 成人の人格および行動の障害
 - 7) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
 - 8) てんかん
 - 9) 児童青年期の精神障害
 - ①児童青年期の精神障害の特徴
 - ②精神遅滞
 - ③心理的発達障害
 - ④小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害
- 7 精神医学と社会
 - 1) 精神科医療の歴史（患者処遇の歴史）
 - 2) 精神医学の歴史
 - 3) 地域精神医学

【成績評価の方法】

- 前期 レポート
後期 テスト

【教科書】

改訂 精神保健福祉士養成セミナー 精神医学 第1巻 へるす出版

【参考文献】

ICD-10 精神および行動の障害 WHO編 医学書院
DSM-IV-TR 精神疾患の分類と手引き APA編 医学書院
精神病 笠原嘉編 岩波新書
現代児童青年精神医学 山崎晃資ら編 永井書店

【備考】

<99生>
SW生は、精神保健福祉受験資格過程科目（随意）として履修

さ
行

科 目 名			
精神科リハビリテーション学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	栄 セツコ

【講義概要・学習目標】

- 1 精神科リハビリテーションの概念について理解させる。
- 2 精神科リハビリテーションの構成について理解させる。
- 3 精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解させる。
- 4 精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。
- 5 精神科リハビリテーションにおける連携について理解させる。

【講義計画】

- 1 精神科リハビリテーションの概念
 - 1) リハビリテーションの概念と歴史
 - 2) リハビリテーションの理念、意義と基本原則
 - 3) 精神科リハビリテーションの概念
 - 4) 精神科リハビリテーションの理念と意義
 - 5) 精神科リハビリテーションの基本原則と技法
 - 6) わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状
- 2 精神科リハビリテーションの構成
 - 1) 精神科リハビリテーションの対象
 - 2) 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
 - 3) 精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携
 - 4) 精神科リハビリテーションの施設
 - (1) 病院リハビリテーション施設等
 - (2) 社会復帰施設及びその他の社会資源（小規模作業所、グループホーム、地域生活支援事業など）
 - (3) 精神保健福祉センター及び保健所
 - (4) その他の協力機関、支援団体
 - 5) 精神科リハビリテーションの関連領域
- 3 精神科リハビリテーションのプロセス
 - 1) リハビリテーション計画
 - 2) アプローチの方法
 - (1) 病院におけるリハビリテーション
 - (2) 社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション
 - (3) 地域におけるリハビリテーション
 - 3) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション
- 4 医療機関におけるリハビリテーション
 - 1) 作業療法およびレクリエーション療法
 - 2) 集団精神療法
 - 3) 行動療法
 - 4) 認知行動療法（生活技能訓練を含む）
 - 5) 家族教育プログラム
 - 6) デイケアおよびナイトケア
 - 7) 精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
- 5 精神保健福祉士が行うリハビリテーション
 - 1) 精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション
 - (1) 集団精神療法における精神保健福祉士
 - (2) 生活技能訓練における精神保健福祉士
 - (3) デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士
 - (4) 訪問看護・指導における精神保健福祉士
 - 2) 社会的リハビリテーション
 - (1) 日常生活への適応のための訓練
 - (2) 社会復帰のための相談・助言・指導
- 6 精神科リハビリテーションの総合化
 - 1) 地域リハビリテーション
 - (1) 地域ネットワーク
 - (2) ケアマネジメント
 - (3) 地域生活支援事業と訪問援助
 - (4) 家族会および自助グループ
 - (5) ボランティアの育成と活用
 - 2) 職業リハビリテーション
 - 3) 精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、試験を総合して評価する。

【教科書】

（精神保健福祉士養成講座編集委員会編）『精神科リハビリテーション学』（中央法規出版社）

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
精神保健学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	郭 麗 月

【講義概要・学習目標】

- 1 精神保健についての基本知識について理解させる。
- 2 ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。
- 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。
- 4 地域精神保健と地域保健について理解させる。
- 5 諸外国における精神保健の概要について理解させる。
- 6 関連法規および施設について理解させる。

【講義計画】

- 1 精神保健についての基礎知識
 - 1) 精神保健の概要
 - 2) 精神保健の意義と課題
- 2 ライフサイクルにおける精神保健
 - 1) 胎児期および乳幼児期における精神保健
 - 2) 学童期における精神保健
 - 3) 思春期における精神保健
 - 4) 青年期における精神保健
 - 5) 成人期における精神保健
 - 6) 老年期における精神保健
- 3 精神保健における個別課題への取り組み
 - 1) 精神障害者対策
 - 2) 老人性痴呆疾患対策
 - 3) アルコール関連問題対策
 - 4) 薬物乱用防止対策
 - 5) 思春期精神保健対策
 - 6) 地域精神保健対策
 - 7) ターミナルケアと精神保健
- 4 精神保健活動の実際
 - 1) 家庭における精神保健
 - 2) 学校における精神保健
 - 3) 職場における精神保健
 - 4) 地域における精神保健
- 5 地域精神保健と地域保健
 - 1) 地域精神保健施策の概要
 - 2) 地域保健施策の概要
 - 3) 関係法規
 - 4) 関連施策
- 6 諸外国における精神保健

【成績評価の方法】

レポート、定期試験

【教科書】

(精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編)
『精神保健福祉士養成セミナー 第2巻 「精神保健学」』
(へるす出版)

【参考文献】

適時紹介する。

科 目 名			
精神保健福祉援助演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	栄 セツコ

【講義概要・学習目標】

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

【講義計画】

- 精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法が学生個々に身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を取り上げるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で事例研究およびロールプレイ等を行う。その際、次の点に留意する。
- 1 実習前においては、少なくとも精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助技術のモデル的な事例を取り上げ、講義の内容を深め、実習の教育効果が上がるようにする。
 - 2 演習を通して援助関係の実際及びチーム医療の実践を身につけるようにする。
 - 3 実技指導等
 - (1) 面接実技指導
 - (2) 記録実技指導
 - (3) 集団実技指導
 - (4) 評価・効果測定実技指導
 - 4 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。
 - 5 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席・参加状況、レポート、試験を総合して評価する。

【備考】

00・01SW生は、精神保健福祉士受験資格課程科目（随意）として履修

さ
行

科 目 名			
精神保健福祉援助技術各論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	金 文 美

【講義概要・学習目標】

- 1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）について具体的事例に基づき理解させる。
- 2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）について具体的事例に基づき理解させる。
- 3 精神障害者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解させる。
- 4 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）について具体的事例に基づき理解させる。
- 5 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解させる。

【講義計画】

- 1 精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した個別援助技術
 - 2) 個別援助技術の実際と適用分野
 - 3) 個別援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
- 2 精神障害者を対象とした集団援助技術（グループワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した集団援助技術
 - 2) 集団援助技術の実際と適用分野（生活技能訓練を含む）
 - 3) 集団援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
- 3 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）
 - 1) 地域援助技術の概念と基本的性格
 - 2) 地域援助技術の具体的展開
 - (1) ノーマライゼーションの推進と住民参加
 - (2) 社会資源の活用と開発
 - (3) 地域社会における連携と調整機能
 - (4) 家族会、自助グループの支援
 - (5) ボランティア等地域マンパワーの育成と活用
 - (6) 地域援助
 - 3) 具体的事例検討
- 4 精神障害者のケアマネジメント
 - 1) ケアマネジメントの原則
 - (1) ケアマネジメント
 - (2) 適用と対象
 - (3) 人権への配慮
 - 2) ケアマネジメントの意義と留意点
 - (1) ケアマネジメントの意義と留意点
 - (2) 関係機関との連携
 - 3) ケアマネジメントのプロセス
 - (1) 受理面接（インテーク）
 - (2) ニーズの把握とその評価
 - (3) 目標設定と計画的実施
 - (4) 包括的サービスの実現
 - 4) チームケアとチームワーク
 - 5) 具体的事例検討
- 5 精神障害者援助と関連専門職種との連携
 - 1) チーム医療における精神保健福祉士の役割
 - 2) 専門職等の役割と機能
 - 3) チームアプローチ及び生活支援の理念と精神保健福祉士の役割
 - 4) 協力・連携による包括的保健・医療・福祉サービス

【成績評価の方法】

レポート提出

【教科書】

精神保健福祉士養成セミナー（第6巻）
『精神保健福祉援助技術各論』（へるす出版）

【備考】

00・01SW生は、精神保健福祉士受験資格課程科目（随意）として履修

科 目 名			
精神保健福祉援助技術総論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	辻 井 誠 人

【講義概要・学習目標】

- 精神障害者に対する社会福祉施策とその具体的展開場面である援助活動を体系的に理解する。
- 精神障害者への社会福祉援助活動を展開する専門職（価値及び倫理、専門技術、専門知識）について理解する。
- 精神保健福祉士が専門技術を用いる具体的事例を取り上げ、理論的に検証する。

【講義計画】

- 1 援助技術を用いて取り組む課題
精神障害者とその生活困難性について
- 2 精神障害者への社会福祉援助活動を展開する専門職
価値及び倫理
専門技術の体系
専門知識
- 3 精神保健福祉士と専門技術の展開過程
各展開過程における原則
具体的実践例による検証

【成績評価の方法】

期末試験の成績を中心に評価する。
レポートの提出を求めた場合はその評価も含める。
出席や授業態度などは期末試験に加算する場合がある。

【教科書】

住友雄資・長崎和則・金子努・辻井誠人編『精神保健福祉実践ハンドブック』日総研出版 2002年

【参考文献】

仲村優一監修『ソーシャルワーク倫理ハンドブック』
中央法規出版 1999年

岡村正幸、川田誉音編『個別援助の方法論』
株式会社みらい1998年

北島・副田・高橋・渡部編『ソーシャルワーク実践の基礎理論』
有斐閣 2002年

その他講義で随時紹介

科 目 名			
精神保健福祉援助実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	6	〈春〉金 文 美 〈秋〉郭 麗 月

【講義概要・学習目標】

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

【講義計画】

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚学習
- 3 現場体験学習
- 4 見学実習（急性期病棟など）
- 5 専門援助技術実習指導
- 6 リハビリテーション実習指導
- 7 配属実習
- 8 全体総括

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）を条件とする。実習記録、実習レポート、実習研究報告、実習先評価を総合して評価する。

【教科書】

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編
精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 『精神保健福祉援助実習』（へるす出版）

【参考文献】

適時紹介する。

【備考】

00・01SW生は、精神保健福祉士受験資格課程科目（随意）として履修

科 目 名			
精神保健福祉援助実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	6	栄 セツコ

【講義概要・学習目標】

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

【講義計画】

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚学習
- 3 現場体験学習
- 4 見学実習（急性期病棟など）
- 5 専門援助技術実習指導
- 6 リハビリテーション実習指導
- 7 配属実習
- 8 全体総括

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）を条件とする。
実習記録、実習レポート、実習研究報告、実習先評価を総合して評価する。

【教科書】

特になし

【参考文献】

適時紹介する。

【備考】

00・01SW生は、精神保健福祉士受験資格課程科目（随意）として履修

科 目 名			
精神保健福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	栄 セツコ

【講義概要・学習目標】

- 1 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。
- 2 精神障害者の人権について理解させる。
- 3 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。
- 4 精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。
- 5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。
- 6 精神保健福祉施策の概要について理解させる。
- 7 精神保健福祉の関連施策について理解させる。

【講義計画】

- 1 障害者福祉の理念と意義
 - 1) 障害者福祉の理念
 - (1) 障害者福祉の発達
 - (2) ノーマライゼーション
 - (3) リハビリテーション
 - (4) 生活の質 (QOL)
 - (5) 生活支援
 - 2) 障害及び障害者
 - (1) 障害の概念
 - (2) 障害分類 (国際障害分類を含む)
 - (3) 精神障害の特性
 - 3) 障害者福祉の基本施策
 - (1) 障害者基本法
 - (2) 障害者プラン
 - 4) 現代社会と精神障害者
 - (1) 精神障害者の概念
 - (2) 精神障害者と家族
 - (3) 精神障害者と地域社会
 - (4) 精神障害者のノーマライゼーション
- 2 精神障害者の人権
 - 1) 精神障害者の権利擁護
 - 2) 精神医療における権利擁護
 - 3) インフォームドコンセント
 - 4) 地域社会における精神障害者の人権
- 3 精神保健福祉士の理念と意義
 - 1) 精神保健福祉の歴史と理念
 - 2) 精神保健福祉士の意義
 - 3) 精神保健福祉士の対象
 - 4) 精神保健福祉士の専門性と倫理
- 4 精神障害者に対する相談援助活動
 - 1) 精神障害者を取りまく社会的障壁 (バリアー)
 - 2) 精神障害者の主体性の尊重
 - 3) 相談援助活動の方法
 - (1) 医療施設における相談援助活動
 - (2) 社会復帰施設等における相談援助活動
 - (3) 地域社会における相談援助活動
 - 4) 相談援助活動の事例
- 5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律
 - 1) 精神保健福祉法の意義と内容
 - 2) 精神保健福祉士法の意義と内容
 - 3) 関連法について
- 6 精神保健福祉施策の概要
 - 1) 精神保健福祉に関する行政組織
 - 2) 精神保健福祉に係る公的負担制度 (公費負担医療等)
 - 3) 精神保健福祉施策の課題
 - (1) 精神障害者福祉対策
 - (2) 社会復帰対策
 - 4) 精神保健福祉における社会資源
 - (1) 精神障害者保健福祉に関わる専門職との連携
 - (2) 社会資源
- 7 精神保健福祉の関連施策
 - 1) 雇用・就業 (障害者雇用促進法等の概要を含む)
 - 2) 所得保障
 - 3) 経済負担の軽減

4) 生活環境の改善

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、試験を総合して評価する。

【教科書】

(精神保健福祉士養成講座編集委員会編)『精神保健福祉論』(中央法 規出版社)

科 目 名			
生徒指導法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	辻 川 信 孝

【講義概要・学習目標】

今、学校は様々な問題を抱えている。いじめ、不登校、学級崩壊、校内暴力、高校中退など生徒指導上の問題が多発し、学校教育のあり方が問われている。一方、新しい教育のあり方が議論され、個性重視、生きる力の育成、学校週5日制への対応等、生徒指導の新しい課題も指摘され、教育改善の取り組みがすでに始まっている。このような状況の中で、教育実践者に、これら生徒指導上の問題の本質をとらえる目と個々の子どもに必要な援助方法を身につけることが求められている。本授業では、学校現場の事例を中心に、参加型の授業を進めて行きたい。事例から、問題の本質を見つけ、自分なりの考えをまとめ、グループワークにより、問題解決に向けての考え方（法則性）を習得してもらいたい。併せて、数多くの事例に接することにより、適切な対応（生徒指導の技術）と子どもたちに接する姿勢（生徒指導の心）を学びとってほしい。

【講義計画】

1. 生徒指導とは
 - (1) 授業計画と進め方・子どもたちの状況と生徒指導のあり方
 2. 事例研究（学校現場の実践から学ぶ）
 - (1) 校則・生徒心得
 - (2) いじめ
 - (3) 不登校
 - (4) 授業妨害・学級崩壊
 - (5) 校内暴力
 - (6) 性に関する問題行動
3. 求められる生徒指導
 - (1) 子どもたちへのかかわり方
 - (2) 楽しい授業づくり
 - (3) 生き方としての進路指導（職場体験学習）
 - (4) 学級経営に生かせるカウンセリングの演習
 - (5) 地域と一体の子育て支援活動
4. まとめ

【成績評価の方法】

出席状況、期末の最終レポートの結果を総合的に評価して行う。ただし、2/3以上の出席がなければ評価しない。

【教科書】

毎時間、プリントを配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

科 目 名			
生徒指導法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2	宮 本 進

【講義概要・学習目標】

21世紀初頭の地球は科学技術、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化、地球環境の悪化など急激な変化の最中にある。幾つかの地域では紛争中であり日本もそれに無関係ではいられない。また、日本経済は低迷中である。生徒達は将来への予測が難しく、目標が見えにくい。特に、将来の進路への漠とした不安の中にある。それが生徒達の種々の問題状況を生む背景ともなっている。生徒指導は教科指導以外の指導のことであり、その内容は学業指導・進路指導・個人的適応指導・社会性指導・余暇指導・健康、安全指導などの領域がある。究極の目的は「自らの生き方を構築する自己指導力の育成」にあると言える。受講生自らがこの力をどう養うのかを提起しつつ、進路指導の領域に重点を置きながら各領域について具体的な諸実践を考察し、生徒指導のあり方を研究する。討論等を取り入れた参加型の授業にしたい。

【講義計画】

1. はじめに一講義計画など
2. 教育の原点と生徒指導
3. 生徒達を取り巻く社会状況と生徒指導
4. どんな教員に
5. 個人的指導力と組織的指導力と生徒指導
6. ～8. 生徒指導の実際と原理・原則
9. ～12. 進路指導の実際と原理・原則と生徒指導
13. まとめとテスト

【成績評価の方法】

出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。

【教科書】

授業ノート・資料などをプリントして配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する

さ
行

科 目 名			
税法Ⅰ (旧税法)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	中 田 信 正

【講義概要・学習目標】

税法のうち、身近な問題を対象に、個人の所得に課せられる所得税の仕組みを講義する。日本の税制を全般的に述べた後、所得税を取り上げ、その計算構造を体系的かつ具体的に解説する。所得の種類およびそれぞれの所得の計算方法、所得控除、税額控除を説明するとともに、申告・納税等の手続きにもふれる。理解を深めるため、計算および文章問題の練習を重視する。

(学習目標)

所得税の基本的仕組みを、体系的に理解する。

【講義計画】

- 1 日本の税制
- 2 所得税の納税義務者
- 3 非課税所得
- 4 事業所得
- 5 利子所得
- 6 配当所得
- 7 不動産所得
- 8 給与所得
- 9 退職所得
- 10 譲渡所得
- 11 山林所得
- 12 一時所得
- 13 雑所得
- 14 所得の総合課税と分離課税
- 15 所得控除
- 16 税額の計算
- 17 源泉徴収・年末調整

【成績評価の方法】

期末試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出題する。

【教科書】

高倉明編『実践 所得税の基礎から実務 平成16年度版』
(大蔵財務協会)

【参考文献】

日本税理士会連合会・中央経済社〔編〕『所得税法規集』(中央経済社)

【備考】

<02~04生>

共通自由科目として、B生対象外

科 目 名			
税法Ⅱ (旧税法)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	中 田 信 正

【講義概要・学習目標】

身近な税法として、相続税の概要を講義する。まず、相続税の意義を検討するとともに、民法の相続に関する基本規定を説明する。ついで、相続税の納税義務者、課税財産および非課税財産の内容を明らかにする。さらに、相続税の計算手続きを体系的に解説するとともに、相続財産の評価の仕組みについても取り上げたい。相続税の申告と納税の手続きにふれた後、相続税と関連の深い贈与税(財産の贈与を受けた個人にかかる税金)の要点についても説明したい。

理解を深めるため、計算および文章問題の練習を重視する。

(学習目標)

相続税の基本的な仕組みを、体系的に理解する。

【講義計画】

- 1 相続税の意義
- 2 民法の相続に関する基本規定
- 3 相続税の納税義務者
- 4 相続税の計算の仕組み
 - ①課税価格
 - ②債務控除
 - ③相続税の総額の計算
 - ④各相続人の納付相続税額の計算
- 5 相続財産の評価
- 6 相続税の申告と納税の手続き
- 7 贈与税の要点

【成績評価の方法】

期末試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出題する。

【教科書】

『平成17年度版 やさしい相続税』(大蔵財務協会)

【参考文献】

日本税理士会連合会・中央経済社〔編〕『相続税法規通達集』(中央経済社)

【備考】

<02~04生>

共通自由科目として、B生対象外

科 目 名			
税務会計			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	金 光 明 雄

【講義概要・学習目標】

税務会計は、企業の活動内容を記録し、それに基づいて企業（個人企業と法人企業の両方を含む）の課税所得金額と税額を計算して、その結果を報告する過程です。税務会計によって作成される課税所得金額や税額に関する情報は、申告納税制度のもとでまず税務当局に対して報告され、さらに合理的な租税負担を可能にする有効なタックス・プランニングのための情報として企業の経営者に対しても報告されます。とくにバブル経済の崩壊以降、長引く経済不況のために、それまでの売上拡大による企業成長が困難な状況となった現在においては、できるだけ企業の納税額を節約（「脱税」とは違う）して税引後キャッシュ・フローを増やすことが、企業価値最大化の観点から注目されています。このような意味においても、税務会計の果たす役割は重要なものとなってきています。

この講義では、主に法人企業を対象にして、税務当局や経営者に対して報告される課税所得金額や税額の計算の仕組みとルールを、財務会計との相違点にも触れながら解説します。そして最終的には、税務会計の基本的な枠組みが理解できるようになることを目指します。

【講義計画】

概ね以下のような内容にそって、講義を進めていく予定です。またこの講義では、理解を深めるために、適宜、計算問題による演習を行います。その結果は平常点として成績評価に加味します。

1. 法人所得課税制度の概要
2. 課税所得計算の構造
3. 益金計算・損金計算の原則と特例
4. 益金の計算
5. 損金の計算
6. 税額の計算
7. 企業組織再編税制
8. 連結納税制度

なお、この講義の具体的な進め方や成績評価の方法については初回の講義（オリエンテーション）で説明しますので、受講希望者は必ず初回の講義に出席してください。

【成績評価の方法】

小テスト（平常点）と期末試験で評価します。

【教科書】

菊谷正人『法人税法要説－税務計算例でわかる法人税法－』同文館出版、2003年。

その他、適宜レジュメを配布します。

【参考文献】

中田信正『税務会計要論（13訂版）』同文館出版、2004年。
その他の参考文献については、必要に応じて講義の中で指示します。

科 目 名			
西洋経済史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	前 田 治 郎

【講義概要・学習目標】

18世紀後半のイギリスに始まる産業革命は、人類史的観点からしても、巨大なインパクトをもった。それ以後、資本主義という経済システムが確立・発展し、その下で、人間の生産力は加速度を加えながら飛躍し今日に至る。とはいえ、この過程は常に平坦な道のりであったわけではない。すなわち、一方で、経済成長が順調に進展する時期と成長が鈍化し様々な対立が生じる時期が交替したし、また他方では、資本主義の世界的展開過程において、戦争に象徴されるような諸国民国家間の対立も伴わざるを得なかった。本講義では、イギリス産業革命から第1次大戦までを対象時期として、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカにおける各国資本主義の確立・展開過程を縦軸に、各国資本主義の関係の緊密化＝資本主義の世界体制の形成過程を横軸にとり、いわゆるパクス・ブリタニカの歴史的発展を考えたい。

【講義計画】

1. イギリス産業革命と各国の対応
2. イギリス資本主義の再編成
3. パクス・ブリタニカの生成と発展
4. 大不況期と独占資本主義

【成績評価の方法】

春学期末試験と授業中に数回行う予定の小テスト

【参考文献】

藤瀬浩司（著）『資本主義世界の成立』（ミネルヴァ書房）

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、E生対象外

さ
行

科 目 名			
西洋古典語－ギリシア語 (旧ギリシア語)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	山 川 偉 也

【講義概要・学習目標】

西洋文化を多少なりとも深く知りたいと思うなら、ギリシア文化を知ったほうがよい。ギリシア文化を知りたいと思うなら、ギリシア語を学んだほうがよい。ただし、ここでいうギリシア語とは、ヘロドトスやソフォクレス、プラトンやアリストテレスなどが使っていたいわゆる古典ギリシア語である。これを学ぶことによって新約聖書のギリシア語も現代ギリシア語も読むことができるようになるだろう。この授業は、その基礎を教えることを目的とする。

【講義計画】

テキストに即して漸進的に古典ギリシア語を学んでいく。漸進的に編集されている各課の練習問題をこつこつとこなしていくことが肝心である。

【成績評価の方法】

毎回の授業が小テストとしての意味をもつ。期末には試験をするが、それはこの小テストの積み重ねによって定まっていく評価を最終的に確定するためのものだと考えていただきたい。

【教科書】

田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門－改訂版－』岩波全書

【参考文献】

古川晴風『ギリシャ語辞典』大学書林

科 目 名			
西洋古典語－ラテン語 (旧ラテン語)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	ゴンザレス ダリオ Gonzales Dario

【講義概要・学習目標】

(学習目標) ラテン語の基礎的な知識の習得を目指す。

(講義概要) ヨーロッパの共通語的存在であったラテン語は、2千年余りの歳月により、今やフランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、ルーマニア語、等に変身しているが、西洋文明や歴史文化の謎を解くための鍵になる言語である。又、英語の辞書を開けば、多くの語彙がラテン語から影響していることを知り、母なる言語の由縁が自然に理解できる。

講義は、ラテン語の基礎的な文法の理解と、現代ヨーロッパの諸言語の共通点を知るためにラテン語の歴史概要についても触れる。又、ラテン語に出来るだけ親しんでもらう為に視聴覚教材を活用するつもりである。

【講義計画】

- (前期) 1. ラテン語の起源と歴史
2. 発音と読み方
3. 基礎的な文法事項

- (後期) 1. ラテン語からの派生語
スペイン語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語 等
2. 身近なラテン語
音楽と雑誌
3. 簡単な日常会話

【成績評価の方法】

出席日数、レポートの総合評価とする。

【教科書】

プリント配布。

【参考文献】

松本悦治 (著) 「ラテン語入門」 (駿河台出版社)

科 目 名			
西洋思想史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	山 川 偉 也

【講義概要・学習目標】

「プラトンを読む」と題し、ソクラテスの対話篇に続くプラトン独自の思想が展開される対話篇のうちから代表的作品を選び、その解題を行うかたわら、いっそう立ち入ってプラトン独自の思想を解明することへ向かう。そうすることによって、また、西欧思想の根本構造に迫ろうとする。その意味で、この講義は西欧思想へのプレリュードの意味をもつことになるだろう。

【講義計画】

プラトンの生い立ち、西洋思想上の位置づけ、その現代的評価等について述べる序論の部から始め、次第にプラトン対話篇そのものに入っていくことにする。読まれる対話編としていまのところ予定しているのは、『メノン』、『パイドン』、『シュンポシオン』、『パイドロス』、『国家』、『パルメニデス』、『ティマイオス』である。

【成績評価の方法】

授業中に行う小テスト、レポート、期末テスト、出席率等を勘案して総合的に評価する。

【教科書】

山川偉也著『古代ギリシアの思想』講談社学術文庫

【備考】

<02~04生>
共通自由科目として、LE・LI生対象外

科 目 名			
西洋文化史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	岩 津 洋 二

【講義概要・学習目標】

今日のヨーロッパはEU（欧州連合）として統合が進みつつある。各国民意識を超えた「ヨーロッパ人」意識をもつ人々も増えているが、他方では自民族の文化的伝統の独自性をまもろうとする運動も高まりを見せている。この講義は、おおきく変貌しようとしているヨーロッパを全体的にとらえ、ヨーロッパ文化の現在を理解するための枠組みを提示することを目的とする。

したがって、建築や美術といった特定の文化的な領域の歴史をたどるような講義ではない。多くの日本人にとって憧れの的であったヨーロッパの、一般にはあまり注目されてこなかった側面に焦点を当てながら、その文化的特質について考察する。近代の日本人の西洋への無批判的な憧憬を解体し、西洋を冷静に見直すきっかけとなる講義にしたいと考えている。

【講義計画】

- I 西洋文化史の課題と射程
 - II 西洋文化の伝統と近代
 - III 西洋の統一性と多様性
 - IV 西洋の自己規定
 - V EUのもとでのヨーロッパ
- (第1回目の講義で、より詳細な講義計画を示す)

【成績評価の方法】

講義への参加度・提出物・テストによる総合的評価

【教科書】

とくになし

【参考文献】

授業中に適宜指示する

【備考】

<02~04生>
共通自由科目として、LE・LI生対象外

こ
行

科 目 名			
世界経済事情			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	モグベル ザファル Moghbel Zafar

【講義概要・学習目標】

世界経済の仕組と今日的トピックスについて分かりやすく解説することがこの講義の基本的な趣旨である。受講生は、新聞の国際経済記事に興味をもって読み、自分なりの理解とオピニオンを持てるようになればこの講義の目的が果たされたと考える。

今日の世界経済では、もはや「対岸の火事」と悠長なことは言っていられない。すべての経済現象が同時進行でグローバルに展開し、国境を無視する形でボーダレスに迫って来る。「GLOBAL」と「LOCAL」の垣根が益々やけて行く中で、世界の経済状況に関する的確な情報と理解が問われていることは言うまでもない。このような見地に立って、この講義では世界経済に関係したトピックスを取り上げて、日本国内の問題に関連づけながら説明する。主に、下のテーマの中からタイムリーなトピックスを選んで講義を進める。ただし、「世界経済入門」以降のテーマについては順不同とする。

【講義計画】

1. 世界経済入門
 - － 先進国・中進国・途上国とその他の分類の根拠の意義
 - － 世界経済のルールとその起源
 - － GATT・WTO体制と世界貿易
 - － IMFと国際金融制度
 - － 国際収支の仕組と、日本の国際収支の動向
2. 経済グローバル化の光と陰
3. 地域主義と日本の対応：日本型FTAを巡って
4. 開発途上国の実態と戦略
5. ODAは世界を貧困から救えるか
6. 通貨危機の脅威
7. 石油とその他の一次産品を巡る問題
8. 各国経済事情

【成績評価の方法】

期末試験の結果を主とするが、講義中に課す数回のコメント提出をも参考とする。

【教科書】

宮崎勇、丸茂明則（編）「世界経済読本」（東洋経済新報社）

テキスト以外に授業中に資料を頻繁に配布するので、配布資料の責任ある管理を各人に期待する。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、E生対象外

科 目 名			
世界市民－イスラームとは何か			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	今 澤 浩 二
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

宗教は、人間の営みにきわめて大きな影響を及ぼしている。「世界市民」として行動するためには、宗教というものに対する理解が必要となってくる。

本講では、イスラームという宗教について解説し、それを通じて、宗教が人間にとっていかに重要なものであるのかということを考えたい。

【講義計画】

1. 六信五行
2. ムハンマド
3. コーラン
4. イスラーム法
5. シーア派とスンナ派

【成績評価の方法】

授業中の小テスト、学期末試験。

【教科書】

なし。

【参考文献】

授業中に紹介する。

【備考】

<02～05生>

世界市民科目として、J生対象外

科 目 名			
世界市民－イノベーションの本質			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	鈴木 幾多郎

【講義概要・学習目標】

世界市民となるための条件の一つは、自分の考えを表現できる表現力である。表現力を養うためには、様々な問題についての知識が必要となる。

このクラスでは、日本企業の商品開発にみられる「革新性（イノベーション）」をテーマに日本企業のイノベーションの特質、日本企業の組織文化などを取り上げながら、日本企業についての説明を行う力をつけることを目的としている。

【講義計画】

事前に読むべき本ならびに資料の提示、日本企業の商品開発の事例についての資料を配布・説明し、それらについて討議を行う。

【成績評価の方法】

このクラスでは、表現力を育成を目的とするので、授業中での報告を中心に評価する。

【教科書】

レジメ及び資料は配布する。

【参考文献】

参考文献及び資料については、その都度指示する。

【備考】

<02～05生>

世界市民科目として、J生対象外

科 目 名			
世界市民－家庭と人権：過去・現在・未来 (旧人権問題Ⅰ [人権問題概説])			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	佐藤 啓子

【講義概要・学習目標】

家族の過去の姿から未来への進化とあわせて、個人の過去（たとえば胎児）から高齢者にいたるまでの、いわば足もとの人権問題を、家族を基点に取り上げる。

かなり深刻な問題から身近な問題まで、多様な家族の諸相を見た上で、人権問題を意識できる法的思考を身につけることを目標とする。

【講義計画】

まず初回には、家族が現在意識するような形ではなかった時代を取り上げる。次回以降は、胎児になる段階から死にいたるまでのライフステージごとに人権問題として意識しうる状態を順に取り上げる。

【成績評価の方法】

出席（必ず取るわけではない）とテスト

この講義では黒板はほとんど使わない。その代わり講義構成のメモを渡すので、しっかり話を聞き理解し考えてテストに望んでほしい。

【教科書】

2006年度デイリー六法（三省堂）

販売時期と講義開始の時期が前後するので、最初の講義を聞いてから購入してほしい。

【参考文献】

『結婚と家族－新しい関係に向けて』（福島瑞穂）

『海を渡る赤ちゃん』（朝日新聞大阪社会部）

ほかは追って指示する。

さ
行

科 目 名			
世界市民－環境問題へのアプローチ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	竹 歳 一 紀

【講義概要・学習目標】

現在、環境問題はさまざまな面で社会と関わっている。日々の暮らしから企業経営に至るまで、環境問題をどう考えてどのように対処するかということなしには、われわれの社会の持続的な発展は考えられないといってもよい。

この講義では、担当者の他、本学の専任教員が分担し、各々の専門分野が環境問題と関わる部分を中心に講義する。さまざまな角度から環境問題についての基本的な知識を学ぶことによって、今後さらに深く環境問題を考えるきっかけになることを期待するとともに、世界全体が取り組むべき環境問題について、世界市民の一人としてどう行動するのかを考える一助にしてもらえればと思う。

【講義計画】

1. 環境問題の概要と特徴
2. 都市の発展と公害問題
3. 憲法と環境権
4. 地球温暖化問題と環境税
5. 食料問題と地球環境
6. 廃棄物問題とリサイクル産業
7. 環境問題と企業経営
8. まとめ

【成績評価の方法】

学期末試験、レポートの提出により評価する。
詳細は初回に説明する。

【参考文献】

適宜指示する。

【備考】

インテグレーション科目
<02～05生>
世界市民科目として、J生対象外

科 目 名			
世界市民－キリスト教Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	滝 澤 武 人
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

本学の「建学の精神」である「キリスト教」の立場から「世界市民」に光をあてることがこの講義の目標です。学院のモットー「我に従え」の「我」とは、もちろん「イエス・キリスト」のことです。したがって、一人の人間として生きていたイエスの歴史的な姿を学問的に明らかにすることが課題となります。どれがほんとうのイエスの言葉なのか、どのような状況の中で誰に向かってどんなニュアンスで語りかけられたものなのかを慎重に判断しなければなりません。イエスは最底辺の人間と共に生き、彼らの自由と愛のために闘い、十字架刑に処せられて殺された人間です。そのようなイエスの生き方は、「キリスト教」の枠をはるかに越えた普遍性と世界市民性を獲得しています。イエスの精神は、アッシジのフランシスコ、ザビエル、マザー・テレサらに受け継がれ、現代においても人権・福祉・ボランティア・教育などの問題に関心を有する人々に、大きな感動と希望を与えています。真面目な学生諸君の熱心な受講を期待しています。

【講義計画】

全体的には、滝澤武人著『人間イエス』の内容を講義します。
すなわち、序章 イエスをもとめて

- 1 おいたち
- 2 被差別民衆
- 3 ヒーリング（癒し）
- 4 どんな男？
- 5 どう生きる？
- 6 教会は？
- 7 終末
- 8 死 終章 復活

【成績評価の方法】

試験（50点）・授業感想（30点）・レポート（20点）の予定。第1回目の授業時間に公表しますので、必ず出席してください。

【教科書】

新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会）
滝澤武人『人間イエス』（講談社現代新書）
福音書のテキストを自分自身で「読む」ことが中心的課題ですので、毎時間必ず自分の聖書を持参することが必要です。

【参考文献】

荒井 献『イエスとその時代』（岩波新書）
田川建三『イエスという男』（勁草書房）
大貫 隆『イエスという経験』（岩波書店）

【備考】

<02～05生>
世界市民科目として、J生対象外

科 目 名			
世界市民－グローバル化の中での生き方			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	片 岡 信 之

【講義概要・学習目標】

グローバル化は現代のキーワードの一つです。それは政治、経済、社会、文化等のあり方全般において、大きなインパクトを持って、私たちの前に立ち現れて来ています。この講義では、このグローバル化時代において、本学の掲げる世界市民の育成という理念がどのような意味を持つのかについて考えてみたいと思います。

【講義計画】

次のような内容を考えています。

1. 20世紀末から21世紀初頭にかけて生じた世界の政治的・経済的・社会的構造変化とその意味
2. 社会主義体制の崩壊、既存社会主義理論の行き詰まり
3. 国際的政治・経済・社会の構造変化
4. 資本主義の変化
5. 成熟社会の到来
6. 企業社会の変化
7. 国際化・地球環境保全・人間尊重・企業市民
8. グローバル企業の構造と行動
9. グローバル化する日本企業
10. 異文化間コミュニケーション
11. グローバル化と自律した個人

これらの各項目について、簡単に講義した後、講義中のやりとりをし、また、かなりの回数のレポートを提出して貰います。

【成績評価の方法】

- ① 期末テスト結果によるほか、
 - ② 出席してしっかりノートを取っているかどうか、貴下論に参加したかどうか、
 - ③ 指示したレポートを提出しているかどうか、などによる総合評価とします。
- 概ね期末テスト結果6割、その他4割の比重で評価をします。

【教科書】

必要な資料をプリントして配布します。

【参考文献】

必要に応じて指示します。

【備考】

<02～05生>
世界市民科目として、J生対象外

科 目 名			
世界市民－経済学の生成と時代的背景			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	三 邊 信 夫

【講義概要・学習目標】

経済学はアダム・スミスの「国富論」（1776年）に始まる。この講義では、スミスを中心に、それに先立つ重商主義と重農主義およびロバート・マルサスの「人口論」（1796年）とデヴィッド・リカードの「経済学原理」（1817年）の内容を概説し、資本主義の成立期における経済事情と資本主義精神を述べる

【講義計画】

- 1 重商主義
 - 2 重農主義
 - 3 アダム・スミス（1723-1790）
 - 4 ロバート・マルサス（1766-1834）
 - 5 デヴィッド・リカード（1772-1823）
- （時間が許せば、6. カール・マルクス（1818-1883）の生涯）

【成績評価の方法】

出席と試験

【教科書】

三邊信夫『経済学説史概説』

【備考】

<02～05生>
世界市民科目として、J生対象外

さ
行

科 目 名			
世界市民－在日華僑の歴史と現在			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	過 放

【講義概要・学習目標】

近年、世界的にグローバル化が進み、物や情報だけでなく国境を超えた人の接触や移動も頻繁になってきている。今年度の講義では、日本社会の内なる国際化の視点から、身近な在日外国人－在日華僑を中心に取り上げる。とくに中華街の発生、中国人コミュニティの形成、華僑と日本人との国際結婚、新華僑の事情などといった華僑の生成と変遷に注目する。なかでもとくに在日華僑の歴史と現在に対する考察を通して、日本在住の外国人と海外在住の日本人、そして本学の建学理念でもある「世界市民」についての理解を深めることを目標とする。

なお、授業の進行により、講義計画を一部変更することがある。

【講義計画】

- ・中国社会と華僑の生成
- ・客家と東南アジアの華僑華人
- ・在日華僑社会の形成と変貌
- ・戦後の在日中国人社会
- ・華僑学校と言語・民族文化の伝承
- ・結婚とアイデンティティの変容
- ・新華僑の事情
- ・日本人の海外移住
- ・在日外国人と日本社会

【成績評価の方法】

出席状況、小テスト、レポートと試験。詳細は最初の講義の際に説明する。

【教科書】

授業時に適宜資料を配付する。

【参考文献】

- ・過放『在日華僑のアイデンティティの変容』東信堂
- ・斯波義信『華僑』岩波書店
- ・中華会館編『落地生根』研文出版
- ・その他授業時に適宜紹介をする。

【備考】

<02～05生>

世界市民科目として、J生対象外

科 目 名			
世界市民－障害者問題入門 (旧人権問題Ⅰ [人権問題概説])			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	生 瀬 克 己

【講義概要・学習目標】

「障害者」というのは、どのような人たちのことか。そんなことを理解するために、いろいろな「種類」や「程度」の障害者たちのことを、できるかぎり、具体的に考えていくことにしたい。

【講義計画】

障害者というのは、ごくおおざっぱにいうと、身体障害者、知的障害者、精神障害者の三にわけることができるが、現実には、もっと、もっと多様で、複雑な存在でもある。

そこで、そうした複雑さをできるかぎり念頭に置きつつ、いろいろなタイプの障害者の相違点と共通点を理解してもらえるようにしたい。

【成績評価の方法】

出席点を重視することと、講義への誠実な参加態度を大切にしたい。

【教科書】

特には指定はしません。

【参考文献】

必要なときに適宜紹介します。